

沼津高専だより

第94号

平成21年3月13日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL <055> 921-2700

題字：柳下福蔵 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

☆沼津工業高等専門学校**の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針**…………… 3

☆**校長・3主事から（平成20年度総評）**

実践的・創造的技術者教育に向けて…………… 学校長 柳下 福蔵………… 4

「企業との共同教育」実施中間報告…………… 副校長（教務主事） 森井 宣治………… 5

平成20年度を振り返って…………… 校長補佐（学生主事） 佐藤 誠………… 7

平成20年度総評…………… 校長補佐（寮務主事） 大久保清美………… 8

☆**各学科から（平成20年度総評）**

平成20年度総評（機械工学科）…………… 機械工学科長 西田 友久………… 9

平成20年度の電気電子工学科報告…………… 電気電子工学科長 望月 孔二………… 10

平成20年度末にあたって…………… 電子制御工学科長 長澤 正氏………… 12

平成20年度総評（制御情報工学科）…………… 制御情報工学科長 大島 茂………… 12

物質工学科平成20年度総評…………… 物質工学科長 押川 達夫………… 13

平成20年度をふりかえって…………… 教養科長 勝山 智男………… 14

平成20年度の専攻科総評…………… 専攻科長 芳野 恭士………… 15

☆**部活動**

第43回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 16

第46回「東海地区高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 16

●**全国大会出場報告**

夏…………… サッカー部 物質工学科5年 木暮 瑛………… 17

全国への道のり…………… 男子バスケットボール部 電子制御工学科4年 早苗 駿一………… 17

全国高専大会の報告…………… 卓球部 物質工学科3年 石川 岳………… 18

全国大会へ出場して…………… 陸上競技部 機械工学科3年 福田 克也………… 18

テニス部近況報告…………… テニス部 物質工学科4年 江崎 拓真………… 19

3度目の全国高専大会…………… 水泳部 電気電子工学科3年 遠藤 雄也………… 19

☆**行事・コンテスト・その他イベント**

●**体育祭**

体育祭実行委員長に昇格して…………… 体育祭実行委員長 機械工学科3年 石川 翔太………… 20

●**高専祭**

高専祭を終えて…………… 高専祭実行委員長 電子制御工学科5年 川船 雄一郎………… 20

●**3年合宿研修**

3年合宿研修…………… 3学年担任合宿研修担当 機械工学科 宮内 太積………… 21

3年合宿研修に参加して…………… 機械工学科3年 田邊 渉………… 22

●**ロボットコンテスト2008**

ロボコン部の2008年…………… ロボコン部顧問 電気電子工学科 望月 孔二………… 23

ロボコン部今年の1年を振り返り…ロボコン部 電気電子工学科3年 國原 一博………… 24

歩くロボットをつくって…………… ロボコン部 機械工学科3年 長谷川 智洋………… 24

●**第4回沼津高専英語スピーチコンテスト**

スピーチコンテスト結果…………… 25

スピーチコンテスト…………… 電子制御工学科4年 窪田 直己………… 25

スピーチコンテストを終えて…………… 電子制御工学科4年 瀧村 功………… 25

●**その他イベント**

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008に参加して…電子制御工学科5年 藤田 将喜………… 26

専攻科での研究を経て…………… 機械・電気システム工学専攻2年 今井 俊太………… 26

全国高校化学グランプリ東海支部長賞受賞…………… 物質工学科3年 工藤 徹也………… 27

☆**着任挨拶**

牧場の馬になりますか?…………… 制御情報工学科 相良 誠………… 27

着任のご挨拶…………… 事務部長 奥野 芳明………… 28

☆**退職教職員から**

定年を迎えて…………… 電気電子工学科 加藤 繁………… 28

30年間の感謝…………… 電子制御工学科 森井 宣治………… 29

定年退職を迎えて…………… 技術室長 村越 文夫………… 29

☆**卒業生・修了生から**

光陰、矢の如し…………… 機械工学科5年 佐々木 俊亮………… 30

僕の高専5年間…………… 電気電子工学科5年 海老名 良祐………… 30

5年間を振り返って…………… 電子制御工学科5年 伊藤 勝隆………… 31

専攻科終了にあたって…………… 機械・電気システム工学専攻2年 栗田 哲也………… 31

☆**学生の研究活動（2008.5.1～2009.4.30）**…………… 32

☆**平成20年度卒業生・修了生進路先一覧**…………… 39

☆**教育後援会から**

卒業に際して…………… 教育後援会会長（C5） 鈴木 延孝………… 42

卒業に際して…………… 教育後援会副会長（D5） 池田 庄蔵………… 42

☆**沼津高専TOEIC IP試験**…………… 英語教育ワーキンググループ 舟田 敏雄………… 43

☆**第11回MSOE海外研修の実施予告**…………… 制御情報工学科 大島 茂………… 45

☆**事務部から**

平成21年度前期分授業料の免除および徴収猶予について…………… 46

平成21年度（平成21年4月～平成22年3月）行事予定表…………… 46

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人格教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

校長・3主事から（平成20年度総評）



実践的・創造的 技術者教育に向けて

学 校 長
柳 下 福 蔵

昨年度は、高専教育について国として本格的に議論された年度であります。中央教育審議会において、「高等専門学校教育の充実について」というテーマで審議が精力的に行われ、平成20年12月24日に答申がまとめられ文部科学省に提出されました。結論として、これまでの高専教育に高い評価を与えるとともに、社会経済環境の変化に対応した今後の高専教育の充実の方向性を示しています。その基本的な考え方はつぎのとおりです。

- それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取り組み、社会経済環境の変化に積極的に対応
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

このことは、本校が教育理念として掲げている「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」と基本的に相通ずるものであります。本校としても、このような方向性を踏まえながら、教育理念に基づき、引き続き教育組織の充実や教育内容・方法の充実を進めていきたいと考えています。

特に、産業界や地域社会との連携に関しては、平成16年3月に開設した地域共同テクノセンターを核として、地域企業との共同研究・受託研究・技術相談などを積極的に進めているところですが、併せて、平成18年度から経済産業省の支援のもとに「高専等を活用した中小企業の人材育成事業」を開始し、3年が経過しました。この事業は中小企業の若手技術者に、ものづくりの基礎・応用技術を講義だけでなく高専等の設備を使用して実験・

実習により体験的に学んでいただくものであり、受講生ならびに受講生派遣企業から高い評価をいただいています。来年度以降も継続して実施できるように沼津市、静岡県に支援をお願いしているところです。

一方、企業技術者（OBを含む）に高専学生のものづくり教育を担当していただく「企業技術者等活用プログラム」が共同教育の実践に向けて国で予算化されました。本校では後期から、全学科の1、2、3年生にものづくりの楽しさを学科毎に講義していただき、全学科の4年生には夏季休業中にショートインターンシップ、5年生には今まで開講できなかったマーケティング・経営・知財の講義を選択科目として実施しました。いずれのコースも受講した学生、関係した教員から高い評価を得ていますので、来年度以降も是非継続していきたいと思っています。

5年生諸君・専攻科2年生諸君、卒業・修了おめでとうございます。昨秋、米国に端を発した100年に一度とも言われている世界大不況の影響を受け、日本の製造業界は極めて厳しい状況にあります。このような時だからこそ未来に向けての技術開発が必要であると思います。日本経済新聞の元旦のトップ記事「危機がひらく未来へ、トヨタ太陽電池車で挑む」は正にそのことを象徴していると思います。同誌の他面には、ノーベル化学賞・島津製作所フェロー・田中耕一氏が、「日本のものづくりシステムの長所とは何か？企業で働く研究者、技術者の強みは何か？」の問いに「チームワークに優れる日本のものづくりは、異分野融合を行いやすく独創性をも育てる。企業の研究者は、しがらみが少ない」と語っています。

かつて、日本の社会は個性を尊重せず、個人プレーを嫌うからノーベル賞の受賞者が少ないと言われた時期がありました。異分野融合が決め手となる技術開発・ものづくりの世界に、このことは当てはまらないようです。

技術とは、不可能を可能にする術、科学は神様が造ったものを解明する学問であり、技術は神様が造らなかつたものを造る術であります。

卒業生・修了生諸君の新たな社会でのご活躍を心より祈念します。



「企業との共同教育」 実施中間報告

報告者：教務主事
森 井 宜 治
教務副主事
村 松 久 巳
教務係長
山 口 正 志

1. はじめに

工学技術者に要求される素養は、技術の高度化と広域化に対応できることです。例えば、車載ナビとして使われているGPS技術には一般相対性理論が応用されています。これは技術の高度化の例です。30年前には「特殊相対性理論や量子力学は工学の必要範囲だが、一般相対性理論までは宇宙物理学を専門にしない限り必要ないでしょう。」と言われていましたが、今やカーナビには、なくてはならない「知識」になっています。一方、技術の広域化への対応は経済のグローバル化と連動して要求される素養です。今日、アメリカ発の世界同時不況が製造現場に深刻な生産調整を強いています。異なる世界の価値観を理解し、製造業が当面する社会・経済状況を知らなければ技術者として生きていけない時代なのかもしれません。なぜなら、技術者は「何を造るか」を決定しなければならぬからです。その決定の誤りは経済不況の遠因と成り得るのかもしれません。身近にある生産現場から学ぶこと。技術者養成を目的とする工業高専が避けて通ってはならないステップがそこにあります。本報告はこの趣旨のもとに実施された「企業との共同教育」に関する中間報告です。

2. ものづくりステップ・アップ実践プログラム2008

高専の特徴は早期専門教育の実践にあります。当然、工学技術の高度化・広域化にはカリキュラムで対応しなければなりません。本高専では主として専攻科で「企業との共同研究」を通じて要求される知識の「高度化」に対応し、本科を主として「企業との共同研究」を通じて要求される知識の「広域化」に対応する姿勢をとっています。後者の具体策として「ものづくりステップ・アップ実践プログラム」の実施があります。このプログラムは柳下校長の発意と指導により計画され、文部科学省において「企業技術者等活用Good Practice (GP)」として採択され、予算化されたものです。

3. プログラムの概要

本プログラムのサブタイトルは「ものづくり入門講座からマーケティング・経営・知財までを体系的に教育する企業技術者等活用プログラム」となっています。本プログラムは地域産業で活躍する多くの技術者の知恵と経

験をカリキュラムに反映し、もって本高専の目的である「地域の文化と産業の進展に寄与すること」を意図しております。本プログラムの概要を示しますと、以下のようになります。

- (1) 1、2年生対象：地域企業の存在感を示し、技術者の体験談を聞く。
- (2) 3年生対象：地域企業の存在意義を理解し、技術者による「ものづくり専門講座」を開講する。
- (3) 4年生対象：地域企業における夏季・短期インターン・シップを実施する。
- (4) 5年生、専攻科生対象：マーケティング・経営講座 [2単位]、知財講座 [1単位]。

このプログラムには専攻科と全学科の5年生、電子制御工学科、制御情報工学科と物質工学科の4年生、電気電子工学科と物質工学科の3年生、電子制御工学科と物質工学科の2年生、機械工学科と物質工学科の1年生が、それぞれ既成授業の一部として、あるいは必修、選択、もしくは単位外授業として参加し、幾多の地域企業、静岡県、富士、富士宮、沼津の商工会議所、沼津産業振興プラザ、沼津高専同窓会等の支援と協力をいただきました。

4. プログラム紹介

実施したプログラムを学年・学科別に紹介すると以下ようになります。

実習を除く授業は(1)企業紹介、(2)技術紹介、(3)技術者としての成功・失敗談等を企業の技術者に90分で話していただく方法で行いました。

4. 1.

機械工学科1年生は単位外授業（1単位相当）で「ものづくり技術者入門—ものづくりの現場から—」を実施。SCL(株)アーティスティックス、株式会社エステック、矢崎資源株式会社、矢崎総業(株)技術研究所、関東自動車(株)、NTN株式会社、エミック(株)三島事業所、ヤマハ発動機(株)の各企業から来ていただいた技術者に授業を担当していただきました。実習はコマツ株式会社の伊豆市にある同社テクノセンターの見学となり、タイヤ径が2mを超える100tトラックの助手席に乗って広場を1周する「実習」に学生達は大喜びでした（写真1）。



4. 2.

電子制御工学科2年生は1単位授業（必修）で「工学技術セミナー（後期）」を実施。株式会社安川電機、白井国際産業(株)、オムロン(株)三島事業所、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社、ジャトコ株式会社、高木産業株式会社、(株)朝日工業社 機器事業部 三島オリンパス、特種製紙(株)、富士通(株)沼津工場、(株)明電舎沼津事業所、矢崎総業(株)技術研究所の各企業から来ていただいた技術者に授業を担当していただきました。実習は関東自動車に担当していただき、レクサスSC400の製造ラインの見学に学生達は満足でした（写真2）。



(写真2)

4. 3.

制御情報工学科2年生は単位外授業（1単位相当）で「技術者の道～先輩技術者の歩んだ道から学ぶ～」を実施、富士テクノサポート、特種メーテル株式会社、エミック(株)開発技術部、(株)ゴードーソリューション、(株)明電舎沼津事業所、明電ソフトウェア株式会社、矢崎総業(株)技術研究所、東レ(株)三島工場、東芝機械(株)沼津本社、オムロン(株)三島事業所、(株)リコー沼津事業所、東芝テック(株)オートID・プリンタ事業本部、旭化成ファーマの各企業から来ていただいた技術者に授業を担当していただきました。

4. 4.

電気電子工学科3年生では既存教科目内授業（1単位相当）で「エレクトロニクス・セミナー」を実施。東芝キャリア株式会社、(株)アーティスティックス、国産電機株式会社、(株)明電舎沼津事業所、富士通(株)沼津工場、矢崎総業(株)技術研究所、株式会社アルバックの各企業から来ていただいた技術者に授業を担当していただきました。学生達は「最新の技術」の話に熱中していました。

4. 5.

物質工学科では1、2年生共通で既存教科目内授業「物質工学入門」の6時限分として実施。東洋インキ製造(株)富士製造所、矢崎総業(株)技術研究所の各企業から来ていただいた技術者に各90分の授業を担当していただきました。

物質工学科2年生では既存教科目内授業「無機化学実験」の2時限分として日本軽金属蒲原製造所から、「分析化学」の2時限分として東芝機械(株)沼津本社から来てい

ただいた技術者に各90分の授業を担当していただきました。

同3年生では既存教科目内授業「無機化学Ⅰ」、「物理化学Ⅰ」、「生物化学Ⅰ」、「有機化学実験」の各2時限分として、それぞれ三菱アルミニウム(株)、矢崎総業(株)技術研究所、静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター（4時限分）、川研ファインケミカルから来ていただいた技術者に各90分の授業を担当していただきました。

4. 6.

4年生の短期インターンシップは、白井国際産業、エステック、丸善工業、町田食品、中里メッキ、HKS、富士セラミックスの7企業の協力を得て、7名の学生が1企業当たり2日間のインターンシップを行い、体験報告をするという内容です。参加学生は電子制御工学科4、5年生が各3名、物質工学科4年生が1名でした。

4. 7.

5年生は全学科を対象として後藤治勝講師（元不二精機社長）による2単位授業「企業と生産活動」を実施。実習あり演習ありの立体的な授業となり、「5年間で一番面白くてためになる授業でした。今までは知識の取り入れ方は学んできたけれど、その取り出し方は学ばなかったような気がします。この授業を通じて知識の取り出し方、活かし方を学びました。」というのが受講した学生の感想です。受講した学生は機械工学科1名、電気電子工学科5名、電子制御工学科5名、制御情報工学科1名、物質工学科6名の計18名でした。実習では東栄電機、東芝機械各企業の協力を得て「品質、コスト、納期」に関する実地研修を行いました（写真3）。学生達は進行する不況を目のあたりにしたことになります。

この授業は「元気のある中小企業講座」として有限会社トラス、東海電子株式会社、月島発条株式会社、株式会社トライ・カンパニーの各社から企業紹介をしていただきました。



(写真3)

4. 8.

5年生、専攻科生には小野義光講師（浜松科学技術研究振興会STLO事業部 技術移転部）による1単位授業「知的財産権」を実施。受講した学生は電気電子工学科4名、電子制御工学科24名、制御情報工学科1名、物質工学科3名、計32名でした。

5. おわりに

「ものづくりステップ・アップ実践プログラム2008」は1年生から専攻科生までの全学科の学生が参加し、延べ55企業の協力と68名の講師陣により実施されました。私たちはこのプログラムの実施を通じて学生諸君が「ものづくりの現場」を見、声を聞き、学ぶ意欲に結びつく刺激を得たと思っています。また、協力していただいた企業からは沼津高専の技術者養成カリキュラムに注目して

いただき、評価していただいたと思っています。「こんなに身近に、こんなに高い技術を持った、こんなに素晴らしい企業があるなんて、初めて知りました。技術者としての将来を築く上で大いに参考になりました。」と言うのが大方の学生諸君の感想です。協力いただいた企業と技術者の皆さんへのお礼の言葉を添えて、保護者の皆様方への報告とさせていただきます。

ありがとうございました。



平成20年度を振り返って

校長補佐（学生主事）

佐藤 誠

平成20年度を振り返ると、非常の多くの出来事がありました。その一つは、学生の地道な活動がいろいろな分野で開花したことです。今年度の東海地区高専体育大会では、バスケットボール部、卓球部、サッカー部の3クラブが優勝し、全国大会へ団体出場しました。この結果は本校にとって何十年ぶりの快挙でした。また、高専ロボコン東海北陸地区予選においても、出場した2チームがそろってベスト8に残り、1チームが生命大進化（テーマ）賞を獲得することができました。これらは、学生諸君の日々の努力の成果であることはもちろんですが、2年前から行っているクラブ活動改革との相乗効果もあったのではないかと考えております。来年度は九州・沖縄地区で全国高専体育大会、石川県でロボコン東海北陸地区予選が行われますが、学生諸君のさらなる活躍に期待したいと思います。

二つ目は、技能五輪のボランティアとして活動した青野君（S12期生）たちの活動を引き継ぎ、地域のイベントで精力的にボランティアを行ってきたE5の大野哲平君たちのグループ（ワールドスキルズNCT）が沼津ライオンズクラブから千本賞という表彰を受けたことです。さらに、高専祭では、実行委員の計らいにより、有志が行った模擬店の売り上げから募金を募り、集まったお金を三島にある恵明学園に寄付させていただきました。このような学生のボランティアや地域貢献への意識は、毎年クラス単位で行っている校内外のクリーン作戦などによる本校の教育活動が実を結んできていることの表れではないかと考えております。そして、学生会も佐々木会長を中心にして評議委員会の復活や1年生への歩行祭の実施など非常に精力的な活動を展開してくれました。

このように今年度は、素晴らしい出来事が多くありましたが、残念なこともいくつかありました。その一つは、交通事故の多発です。幸い、命に関わるような事故はありませんでしたが、警察の話では命を落としていてもおかしくないような事故もあったそうです。このようなことから、事故防止の意識を高めるために、学生主事、学生主事補、学生係職員により校門前での交通指導を毎日実施してきました。また、春に行われた道路交通法の改正にともない、イヤフォンやヘッドフォンをつけての運転や雨天時の傘差し運転が禁止されました。クラス担任を通じた指導により、ほとんどの学生がルールを守っていますが、一部にはルールを守れない学生もいます。学生の安全に関わる問題ですので、来年度はいっそう厳しく対処していきたいと思っています。

また、残念ながらいくつかの不祥事も生じました。ここ数年、多くの教員が学生のモラルの低下を感じているようです。これは、全ての学生がということではなく、一部の学生にということですが、その数は年々増加しているように感じられます。たとえば、「ちょっとぐらいなら物を食べながら歩いてもいいや」とか「後で返すから〜くんの傘をちょっと借りていこう」などという些細なことがモラルの低下に結びつき、さらには多くの不祥事に発展していきます。われわれ教職員も全員で意思統一して学生のモラル向上に向けて指導していくつもりですが、保護者の皆様にもご家庭でのご指導・ご協力をお願いしたいと思います。

最後に、今年度設立を目指していた学生支援総合センターですが、現在、ワーキンググループを立ち上げ、システム作りを進めています。今年度の設立には至りませんでした。あまり焦って設立するよりもしっかりとしたコンセプトによる中身のあるシステムにするべく、現在も計画を進めていますので、もう少し時間をいただければと思います。今後も保護者の皆様との連携を密にしながら学生諸君がよりよい学生生活を過ごせるように支援してまいりますので、各位のご理解とご協力をよろしく願います。



平成20年度総評

校長補佐（寮務主事）
大久保 清 美

今年度の寮を振り返ってみると、全体としては例年にも増して大変良く運営されてきたと思います。これもひとえに寮生会と教職員との協力の賜物と深く感謝しています。

まず、1年間がんばってくれた寮生全員に心から感謝します。寮長の遠藤修平君を始めとする寮生会本部役員の皆さん、各棟役員の皆さん、各委員会の皆さん、寮祭等イベント・スタッフの皆さん、マテカ執行部の皆さん、そして一般寮生の皆さん、本当にご苦労さまでした。皆さん一人ひとりのがんばりがあったからこそ、この1年間、学生寮が無事円滑に運営されました。ここに心より御礼を言います。ありがとうございました。

今年度で4年目を迎えたマテカは、4月に行われた初回の1年生対象数学マテカに約160名の参加者があるなど、寮の文化としてすっかり定着してきた感があります。今年度は、前寮長の木下雅也君を始めとするマテカ執行部員たちが、年間約60回の授業型マテカと約40回の自習型マテカを行ってくれました。来年度以降の更なる発展を期待しています。

生活指導面については、前年度頻発した寮内での盗難が今年度、幸いにも激減し、ほとんど起こりませんでした。寮内各所に設置したセキュリティー・ボックスの効果があったのかもしれません。また、自転車の寮内での盗難被害も激減しました。これは、自転車持ち込み許可条件を今年度から厳しくし、必ず二重ロックで、なお且つ、その内ひとつはワイヤーロックでないと持ち込みを許可しないことにしたためだと思われま。

しかし、良いことばかりではありません。今年度は夏休み明けの9月以降、退寮（入寮免除）者が続出しました。当初566人いた寮生が、最終的に552人にまで減りました。中途退寮した14人の内、退寮処分を受けた者は一人もいません。皆それぞれに個人的な理由はあるのですが、特に2年生の中途退寮者の中に身勝手な理由が目立ちました。これらの学生は、昨年の再入寮選考時、自身が再入寮を希望することによって遠方の上級生が入寮できなかつた、という事実の重みをもう一度よく考えてもらいたいと思います。一度入寮したからには、1年間寮生活を全うするのが寮生の本来の責務です。なお最近、県東部出身の学生が増えてきていることも勘案し、来年度からは現行の「2年生全寮制の弾力的運用」をさらに一歩進め、遠方の上級生がより多く入寮できるよう措置を講ずる予定です。

今年度は、留学生についても問題の多い年でした。帰

寮時刻等の寮規則を守れない留学生が数名、出て来ました。原因は個人の資質によるところもありますが、一方でチューターほか日本人学生とのコミュニケーション不足の面も否めません。また、栄峰寮内における留学生の居室配置にも問題があることが分かってきました。来年度は、留学生問題の改善に努めるとともに、1年生寮としての栄峰寮の立て直しも図るつもりです。

他高専との交流は、今年度も盛んでした。9月11日(休)から12日(金)にかけては、山口県の大島商船高専の神田全啓・寮務主事と2名の寮務主事補、並びに指導寮生3名（男子2名、女子1名）が視察に訪れ、学生は清峰寮・優峰寮・明峰寮にそれぞれ一泊し、本校の寮生活を体験しました。10月15日(水)から19日(日)にかけては例年どおり、岩手県の一関高専から「交換寮生」4名（男子2名、女子2名）が本校を訪れ、それと交換の形で本校から寮生4名（副寮長・森公哉君、栄峰棟長・三木嶺早君、明峰棟長・若林和さん、総務長・河野恵さん）が一関高専を訪れ、それぞれ相手校の学校生活・寮生活を体験し、交流を深めました。なお、こちらからの引率には藤井数馬先生に行ってくださいました。また、11月20日(休)には北海道の釧路高専から浦家淳博・寮務主事を始め、寮務主事補2名、事務員1名の教職員が視察に訪れました。さらに、1月31日(土)には本校の来年度寮生会本部役員20名が豊田高専学生寮を訪問し、研修及び交流会を行いました。

さて、教職員の方ではご存知のように、今年度新たな寮監として牧野博充先生が着任されました。先生は数学教諭として沼津東高校や葦山高校で長く教鞭をとられた後、沼津商業高校と富士高校とで教頭職を歴任された、教育及び教育行政の専門家です。この1年間、ご一緒に仕事をさせていただいて最も印象に残ったのは、先生の大変誠実なお仕事ぶりです。寮生の日常生活の指導という大変煩雑なお仕事を一つひとつ着実に、また必要なときには大変厳格に行ってくださいました。しかしまた一方で先生は、そのご体格同様、大変スケールの大きい、寛容なお心の持ち主でもあります。沼津高専学生寮の寮監職には代々大変立派な先生方に就いていただいておりますが、今回もまた、このように歴代の先生方に勝るとも劣らない大変立派な先生にお出でいただき、この上ない幸運でした。寮監職は沼津高専学生寮の宝です。牧野先生、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

高専間人事交流制度で山口県の宇部高専から1年間の予定でいらっしゃった内堀晃彦先生にも、さっそく寮務主事補を務めていただきました。内堀先生には宿直業務等でも大変熱心に仕事をさせていただき、心より感謝しています。1年間でお別れするのは名残惜しい気がしますが、宇部に帰られてからのますますのご活躍をお祈りいたします。

懸案だった女子寮生の生活指導の充実についても今年度、ひとつの解決策が図られました。6月17日付けで元

看護師の田中一恵さんを寮監補（寮母）として採用しました。現在、非常勤として週2日（平日）17時15分から22時15分の間、明峰寮内で女子寮生への生活指導と相談対応の任に当たっていただいています。女子寮生の反応も「寮監補の田中さんが巡回に入ってくくださるようになり、様々な部分で安心できるようになりました。22時までの間ですが、体調不良者が出た場合など、適切な指導をしていただけるのでとても感謝しています」と、大変好評のようです。

寮務主事補の先生方には今年度もまた、校務多忙の中、寮生指導の任に当たっていただき、誠にありがとうございました。記録の意味も兼ねて、ここに各棟顧問のお名前を記しておきます。翔峰：永禮哲生・高矢昌紀、栄峰：大澤友克・林剛司、光峰：松澤寛・駒佳明、明峰：古川一実、清峰：藤井数馬・内堀晃彦、優峰：大久保進也、秀峰：江上親宏・大川政志の先生方でした。

最後になりましたが、いかにも本校の学生寮らしいエピソードをひとつ紹介します。閉寮時の荷物運び出しに来る保護者の車の行列・渋滞・混乱を回避するため、夏

休み前の閉寮時、寮長の遠藤君が中心となって、新しい誘導方式を考案・実践してくれました。北寮は翔峰北の駐車場にすべての車を入れ、そこで荷物の積み込みを行いました（従来は各棟玄関で積み込みを行っていました）。南寮は北門から入り秀峰南側の門から出る一方通行としました。それぞれの交通整理には、7月18日(金)夕、19日(土)朝とも遠藤君を始め、本部役員等が当たってくれました。おかげで混乱も無く、大変スムーズに運び出しができました。自身の荷物整理もある中、汗だくになりながら献身的に働いてくれた彼らに心から感謝するものです。本来ならば、このようなことは我々教職員が対応すべきことですが、それを計画から実行まですべて自分たちで自主的に行ってしまうところが、本校学生寮のすばらしさです。これと似たようなことは他にもたくさんありますが、それらはすべて、寮生会の自治意識・能力の高さの表れと言えるでしょう。今年度もこのようなすばらしい寮生たちと一緒に寮運営に携わることができ、幸せでした。1年間、ありがとうございました。

各学科から（平成20年度総評）



平成20年度総評 （機械工学科）

機械工学科長

西田友久

春光天地に満ち、本科5年生と専攻科2年生も旅立ちのときです。誠にありがとうございます。そして、今年度も保護者の皆様には当学科に対しまして多大なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

機械工学科5年生の進路状況は44名中31名の就職、12名の進学、そして専攻科は5名の就職が内定しております。就職内定先は本科生がNTN、川崎重工業、コマツ、ジャトコ、JAL航空機、新日本石油、スズキ、電業社、東芝機械、牧野フライス、三菱重工業、矢崎総業など、専攻科生が関東自動車、スズキ、ソニーイーエムシーエス、富士鋼業、明電舎といった著名な会社に決まっております。また、進学先は本科生が本校専攻科3名、東北大学、千葉大学2名、金沢大学2名、首都大学東京、豊橋技科大2名、香川大学です。ただし、1名は進学を就職に希望変更したこともあり、現在就職活動中です。進路希望の変更は悪いことではありませんが、時期が遅くなると合格率も指数関数的に低下しますので、進路については早い時期から将来のことを考え、保護者の方とも十分に相談されることを希望致します。機械工学科に対する今年度の求人企業数は約540社であり、昨年度の約600社に

比べて減少してはいるものの、依然として高専生に有利な状況でした。しかし、最近のサブプライム問題に端を発した金融危機や円高の影響によって輸出不振となり、“大量解雇”や“100年に一度の経済危機”などと言う文字も紙面を飾るようになりました。採用に対しても狭き門になりつつあり、その波は当科にも押し寄せ、採用を取り消された学生が1名おります（ただし、その後他社に内定しました）。来年・再来年はさらに厳しい年になることが予想され、これまでとは異なり、企業が人を選ぶ時期が再来すると考えられます。「疾風に勁草（けいそう）を知る」と言うことわざがありますが、激しい風の吹くことによって強い草の存在が見分けられるように、苦難に遭遇してはじめてその人の強固さがわかるのです。基礎学力を身に付け、さらに、新聞・本・インターネット等を通じて自分の希望する職種を明確にすることができれば、この難関を乗り越えることも可能です。進学を希望する学生は、5年生になってから受験勉強を始めるようなことはせずに、将来を見据えた上で進学の目的を明確にし、能力に合った大学を選択してほしいものです。

また、機械工学科では低学年生のモチベーションを高めるために幾つかの試みをしています。昨年度から成績不振者に対する指導に学科長をはじめとする当学科関連教員が参加して“5年生の進路状況、数学や機械工学の必要性・面白さ”などについても話し、情報交換を密にすることや、4年生の就職懇談会后、卒業生と下級生との懇談の場を設けたりしています。さらに、今年の高専祭では本科の研究や授業の内容を展示するとともに学科

展示の一環として、“機械工学科卒業生による製品展示および会社紹介”を初めて試みました。ご参加戴いた方々は休日返上で大変だったと思いますが(約20名のOBに深く感謝申し上げます)、学生達は本物の航空機やレース用(レーサー：ロッシ使用)のオートバイ等々に目をクリクリさせながら観察したり、OBの方々に説明や仕事内容を興味深く聞きながら大きな刺激を受けたようです。ご協力して戴いた企業・展示内容は次の通りです。

☆エッチ・ケー・エス：超軽量航空機およびスーパーチャージャー

☆エミックス：小型振動試験装置

☆電業社：モデルポンプ羽根車、モデル送風機羽根車および多段プロア

☆東芝機械：自動車部品用プラスチック成型品およびロボット

☆ビヨーンズ：自動車部品、金型および表面処理製品

☆ヤマハ発動機：オートバイ3台およびエンジンのカットモデル



高専祭での展示風景



平成20年度の 電気電子工学科報告

電気電子工学科長
望月 孔 二

1. 学科の状況報告

巣立ちの春がやってきました。沼津高専の電気電子工学科からも、たくましく育った本科生と専攻科生も大きく羽ばたいてゆきます。本当におめでとうございました。さらに飛躍されることを祈念いたします。

今年度の電気電子工学科の状況についてご報告させていただきます。今年度の電気電子工学科5年生の進路は、就職21名(すべて内定)、進学15名(大学編入学9名、本校専攻科5名および進学希望者1名)です。電気電子工学科教員が指導した専攻科2年生の進路は、就職5名(す

ところで、昨年度より機械系の学生が外部取得可能な単位として機械製図検定(1単位)、CAD利用技術者(2単位)、機械設計技術者試験(3単位)が認められるようになり、これまでに1名が機械設計技術者試験に合格し、また、26名が機械製図検定に合格しました。このような資格を受験することは学生にとって勉学の励みにもなり、取得していると就職の際にも有利になりますので、積極的にチャレンジしてほしいものです。さらに、今年の機械工学科教員の研究状況は国際会議での発表2件(小林教授：米国、新富講師：カナダ)、国内学会等での発表は約20件があり、教育のみならず研究に対しても力を注いでおります。

最後に、今年度の機械工学科は、10名の教員で指導に当たっておりますが、卒業後も勉学の意志を継続できるようにすることを目的として一同スクラムを組んで頑張っています。保護者の皆様のご理解とご協力を戴きたく心からお願い申し上げます。

べて内定)です。(平成21年1月19日現在)今年では就職した学生の数がやや多めでした。

就職については、約600社という、前年度に引き続いて多くの企業から募集があり、学生も大半が6月までに内定を頂くことができました。進学につきましても大半は夏休み前に進学する行き先を決めていました。

続いて、各学年で実施されたキャリア教育に関連することをお伝えします。

1・2年生には年度当初に、私から電気電子工学科の教育に関してガイダンスをさせていただきました。また、12月にも、5年生による就職・進学体験談を聞いていただきました。

3年生は、学校全体で取り組んだステップアップ教育プログラムを受講しました。この教育は、企業の現場で働いている方に講師として来ていただくもので、学生の学ぶ意欲を高めるなどの効果が期待できるものです。

4年生の見学旅行では、FANUC（ロボット製作）、パナソニック甲府事業所（産業用機器製作）、IHI航空宇宙事業本部瑞穂工場（ジェットエンジン製作）、東京農工大学小金井キャンパス（工学部見学）、東京都庁を訪問いたしました。最近は行き先として、大学を含めるようになりました。受け入れをして下さった大学も、歓迎して下さい、学生たちも楽しんでいるようです。また、4年次の夏休みにも教員が主催して勉強会を行うなど、大学等進学に向け支援も更に組織的になっています。

4年生の選択科目として実施されるインターンシップも社会体験をする重要な機会です。今年は、クラスの約3割強が参加いたしました。

学科の施設整備として、今年度は教室程度の大きさの「E科進路相談室」を設けました。進路情報を閲覧したり、進路の相談をしたり、就職試験や編入学試験の勉強をする場です。過去問題集や、試験会場までの旅程など、先輩達が残してくれた情報を自由に利用できるようにしました。学科のミニ図書館と言えるほどに専門書も揃えてあり、全学年で用いる教科書も見ることができます。年度当初は主に5年生、今では主に4年生が利用していますが、下級生のうちに一度見に行くことも刺激になるものと思います。

続いて、実験等に関することをお伝えします。

まずは、小中学校に向けた出前授業と公開講座です。今年もいくつかテーマを上げて実施させていただきました。もちろん、今年度の実施に向けて新しいテーマもいくつか増やすなど、更なる充実を図っています。それらに加えて静岡市科学館“る・く・る”でのサイエンスフェスティバルなど外部で実施される科学イベントにも参加いたしました。高専や科学技術の興味を高めるための一助になれたと思います。

電気電子工学実験（以下「学生実験」）の大きな見直しをしている旨を前回の高専だよりに記しましたが、今年度の一番大きな変革は、2年生の前期の創造実験でした。設定したテーマは、「モータにチャレンジ」、「スピーカを作ろう!」、「LEDを使ってみよう」という3つです。それぞれ4週間ずつかけ、例えばスピーカの実験では、製品の分解、手作りスピーカの製作、原理の追求と改造、報告書作成などを行いました。学生の評判もよいものでした。

以上により5年間の学生実験や研究は、次のラインナップがそろったこととなります。

- 1年次の導入教育
- 2年前期の創造実験
- 2年後期から始めて3年後期まで1年半実施する通常形式の学生実験
- 4年前期のPBL（主に通信システムを題材に、設計・制作・発表します）
- 4年後期と5年前期まで1年実施する通常形式の学生

実験

- 5年生の卒業研究

なお、学生実験の改善はこれで終了したわけではありません。例えば1年次の学生実験では、「学び」をさらに「楽しく体験」できるように推し進めるなど、継続して改善に努めています。

電気電子工学科のホームページ <http://www.denki.numazu-ct.ac.jp/>には写真なども掲載していますので、この報告とあわせてご覧になっていただければと思います。

II. 実験への外国人講師の招聘について

今年度の6月に、創造性教育に造詣の深い米国クラークソン大学のダナ・バリー先生を招へいし、創造性を育むための授業を英語で実施しました。沼津高専の窓口が私だったことから、ここで簡単に報告させていただきます。（この様子の詳細は、沼津高専研究報告第43号にて報告してあります。）

学校全体の取り組みとして全学科にまたがる5クラスを対象としました。授業を英語で行うことから、学生の英語へのモチベーションが高まることが期待されます。そして、一番重要なことは、創造性を高めるための教育について、学校全体で学ぶきっかけとすることです。

今回実施したテーマは2つでした。

電気電子工学科1年を含む2クラスを対象とした「火星探査シミュレーション」は、パソコン上で火星探索のための宇宙船を操作して、自由に火星上の岩石等を分析するものです。テレビゲーム感覚で楽しめますが、その動きは科学的に検証されています。他3クラスを対象とした「アルミボートによる荷積み競争」は、同じ大きさのアルミホイルを受け取った学生たちが、自由な発想で船を造り、どれだけ多くのコイン（実際には座金を使用）を積めるか競うものでした。

どちらの授業も、はじめは英語に面食らっていましたが、自由に試みる時間になると学生たちは楽しみながら工夫をしていました。

学生からの意見のいくつかを示します。

- 「楽しかったです。英語を理解できなかったことがくやしいです。」
- 「技術者に必要な『ものを作ることの難しさや自分でいろいろ考えて新しいものを作る方法、プロセス』を教わることができました。これを将来活かすことができればいいと思います。」
- 「外国人の講師がくるなんて高専ならではすごかった。」

全般的に見て、狙い通りの授業ができたことと思います。また、教育にはこうした経験が早速生かされています。例えば電気電子工学科でも、9月に別のクラスでアルミボートによる荷積み競争を行い、より楽しくより効果的な教育へとつなげています。



平成20年度末にあたって

電子制御工学科長
長 澤 正 氏

昨年度から引き続き本年度も学科長を務めさせていただきました。至らぬ点多々あったと思いますが、なんとか無事に年度末を迎えることができました。関係各位、保護者の皆様には、深く感謝いたしております。

さて、当学科の今年度卒業予定者は36名で、そのうち就職する者が18名、沼津高専専攻科への進学が9名、大学編入学が7名、その他が2人となりました。当学科の教員が指導しています専攻科2年生につきましては、大学院進学が5名、就職が8名です。就職に関して、幸い年度当初は昨年以来の売り手市場で、昨年度並みの470社から求人がありました。ほとんどの就職希望者の就職活動が6月頃には収束したため、10月からの世界同時不況の影響は受けずにすみました。それでも、採用試験に不合格となった会社が3社ありました。現時点で全員の進路が決まり安堵しております。

昨年、12月初旬に開催しました保護者懇談会では、「来期の就職は厳しくなるが、技術者は不足しているので、楽観はできないが、ことさら不安になることもないでしょう。」と言いましたが、この数カ月で情勢は急速に変化しより厳しい状況になってしまいました。今後、採用数を減らす企業が多くなると予測されます。一方で、これを機に優秀な人材を確保しようという中堅・中小企業も少なくないという声も聞かれます。静岡県には優秀な技術を持ち、ニッチな事業に取り組む中堅企業が多くあります。そんな企業に就職して、技術者としてやりがいのある仕事に取り組むのもよいと思います。

近年、学力に関して二極化が進み、本年の各クラスの

成績分布は二つのピークがはっきりと現れています。その結果、毎年留年や退学する学生が少なからず生じていました。本年は留年や退学する学生を減らすことを目標に学生を指導してまいりました。授業の工夫や補習、追試など例年にくらべきめ細かく対応してきたつもりです。しかし、先生が忙しくて質問しようにも先生がいないといった声が保護者や学生から寄せられています。人員や予算の削減、また外部からの評価などで教員の業務が増えていることも事実ですが、学生と向き合う時間を最優先とし、学生の育成に努めたいと考えております。

最近、企業における高専専攻科修了生の評価が高くなってきました。少々砕けた言い方になりますが「大卒に比べ、はずれの少ない人材」ということだそうです。企業は採用活動に多大な費用と労力をかけています。採用した人材が数カ月でやめてしまったり、期待した仕事ができないと企業としては大きな損失です。従来、本科卒業者の中堅あたりが専攻科に進学していましたが、最近では成績が上位の学生も専攻科に進む者が少なくありません。専攻科の学生は研究室に席を置き、毎日そこで勉強し、また指導教員が1対1で研究指導にあたっています。企業の人気が高くなるのも納得できます。ただ、「はずれが少ない」という言葉には、その裏に「が、大当たりもない」という意味も潜んでいます。7年間同じキャンパスにいと視野が狭くなりがちです。そんな環境が「まじめで仕事はできるが、なんとなく物足りない」学生を生んでいるのではないかと思います。専攻科生には、人間の幅を広げるために、地域の社会活動や趣味、インターンシップなどに積極的に取り組み、多くの人と関わるよう指導していきたいと考えております。

以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。来年度も電子制御工学科教員一同、学生の資質向上に邁進していくつもりです。保護者の皆様には今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



平成20年度総評 (制御情報工学科)

制御情報工学科長
大 島 茂

今年度の制御情報工学科は大きな変動とともにスタートしました。すでにご承知の通り、前校長が前職場での事件により逮捕され校長職を解任されるという事態を受け、制御情報工学科教授であると同時に副校長（教務主事）であった柳下教授が校長事務代理をしばらく務めた後、5月12日付けで本校校長に就任しました。そのため柳下教授の担当科目を引継ぐべき後任を急ぎ採用する手続きを進め、9月1日付けで相良誠教授を迎えることが

できました。相良教授は昭和48年より35年余の期間にわたり東芝機械(株)で加工機械の設計等の仕事に従事し、加工技術及び機械振動に関する豊富な知識と技術を持ち、東京大学工学部精密機械科の非常勤講師を長年務めるなど教育面での経験も豊かな方です。後期から、3年生の「加工学」、「工作実習」、5年生の「振動工学」、「工学実験」、専攻科の「振動制御工学」等を担当してもらっています。ヨットや囲碁など幅広い趣味を持ちバイタリティに溢れる先生です。

このような大きな波を乗り越え、年が明けた今ようやく安定した状態に落ち着いた感がします。現在、制御情報工学科教員は相良教授が加わり10名ですが、今年4月1日付けで新任教員（助教）の採用が決まっており、定員に沿った11名体制となります。

さて、平成20年度も余すところわずかで卒業生を送り

出す時期となります。今年度卒業予定の第13期生の進路について簡単にご紹介します。就職が16名、進学が20名（うち4名が沼津高専専攻科）となっています。進学のうち2名は現在も受験活動の中（平成21年1月現在）にあり、合格を目指して奮闘中です。就職内定先に関しましては、例年のようにソフトウェア開発及びコンピュータシステムの構築・運用・管理を業務とする企業へ就職する者が比較的多く、次いで機械及び機械部品メーカー、その他、自動車関連、電気・通信、医薬、飲料、エネルギー関連、アミューズメント装置関連企業等へ内定しています。昨年度と同様約400社の企業から求人がありました。就職希望者の大半は例年通り7月中旬までに内定し、9月には内定率100%となりました。ただ10月以降急激に進んだ世界的不況のため来年度の就職戦線は非常に厳しくなるものと予想されます。求人数が相当落ち込むのではないかと心配しています。

さて、キャリア教育という面で学生時代に学外に出て就業体験することは大変有意義なことです。多くの大学・高専と同様に、沼津高専でも数年前からインターンシップを充実化しています。S科では今年の夏季休暇中に16名の4年生が企業へ出かけ就業体験をしました。勉学の目標を再確認するためにも非常によい経験となっています。また、やはりキャリア教育の一環として、1月末には例年のように3、4年生を対象に、5名のOBを招き進路決定時や卒業後の体験談を話してもらおう進路懇談会を実施します。その他に、学校全体の試みとして、今年度特別に予算を獲得し、ものづくり入門講座からマーケティング・経営・知財教育までを、企業技術者の協力を得て学生達に体系的に学ばせることを目的とした「ものづくりステップアップ実践プログラム」が後期に実行されています。その一環で、制御情報工学科では、主として2

年生（一部3、4年生）を対象に、先端技術に関する話題を含めて、ものづくり技術のおもしろさやものづくり技術者の仕事とやりがい等を地元企業の技術者に講義してもらっています。当初2年生だけを対象に正規授業にプラスして15回の講義を設定したため多くの学生から不評を買いましたが、受講を選択制にし、一部の講義を3、4年生へ移すなどの工夫をして実行しました。種々の企業から講師を招き実社会の話を聞くことは、学生達が将来に見通しを持ち、目標を持って学生生活を送るために大変役立つものと考えます。このようなことの大切さを低学年時から理解し、種々の機会を積極的に活用して自己を磨いて欲しいと思います。

制御情報工学科は平成9年3月に第1期の卒業生を送り出して以来、平成20年3月の第12期生まで480余名の卒業生を送り出しました。それぞれの職場で中堅として責任ある立場で活躍している人達が増えてきています。そこで卒業生達の現況を調査・把握し、率直な意見を聞かせていただくことで、制御情報工学科の今後の在り方を検討する基礎資料とすべくアンケート調査を実施しました。「S科卒業生の現況調査と創造設計に関するアンケートへの協力依頼」を10月初旬に制御情報工学科全卒業生に郵送し、インターネットを介して回答頂く方式で、本年1月10日を回答期限として実施しました。集計・分析はこれからになりますが、その結果をもとに今後の改善につなげていきたいと考えています。

最後になりますが、これまで学科長を7年間務めさせていただきました。来年度は長谷教授にバトンタッチする予定です。保護者の皆様には深いご理解と多大なご協力を頂き誠に有難うございました。これからも一層のご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



物質工学科 平成20年度総評

物質工学科長
押川 達夫

日頃は物質工学科の教育・研究にご支援を頂戴しております保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。平成20年度の物質工学科の総評を記したいと思います。平成20年4月に初々しい新入生42名が入学してきました。また、新専攻科生として5名の入学生を迎えました。特に、本科1年生においては御殿場研修で「中学生生活とは大きく異なる環境に慣れる」ことを中心にメッセージを伝えてきました。彼らが大きく育ち、本科を卒業することを切に願っております。平成20年度の学生進路についてご報告します。5年生の就職希望者は22名、進学希望者は25名でした。高専OB皆様の力量が高く評価されている影響

もあり、全員内定を勝ち取りました。また同様に進学希望者においても東工大をはじめ様々な大学の第一希望大学に合格することができました。しかしながら、昨今の世界的不況の象徴である「トヨタショック」をはじめ、私達の取り巻く環境が大変厳しい状況になってきました。平成21年度の5年生に対する就職も厳しくなるのではと危惧しているところです。先が読めない実経済の中、高専卒業で就職するかあるいは進学して答えを先延ばしにするか、十分に本人と保護者と相談しながら進路決定を行っていきたく思っております。就職する卒業生諸君へ！君達は世界経済が不況になる前の就職内定者である。しかし、就職企業先は厳しい環境であることに相違ない。甘えた気持ちは一切許されない状況であることを認識し、積極的に何でも引き受ける体制作りを行ってほしい。このような心構えを持っていれば、きっと君達は困難を打破できるだろう。大学進学諸君へ！君達が大学院修了時には景気が回復しているかもしれない。しかし、油断はできない。精一杯研鑽を積むことが何よりの優先事項で

ある。

物質工学科の教員組織に大きく変動がありましたのでご報告します。平成20年4月に稲津准教授（東工大・物理化学）、大川准教授（無機化学・愛媛大）のお二人が着任いたしました。また、平成20年3月末に教養科化学・浦崎教授（名誉教授）の退官に伴い、本校物質工学科出身教員である小林美学准教授（無機化学）が後任として学内異動されました。さらに、平成21年3月に望月教授が退官されます。教員の変動および教員1名の定員削減に対応するため、および有機化学関連科目の充実を図るために平成21年4月に山根教員（東京医科歯科大・高分子）が着任されます。

一方、近年の科学技術の専門分野領域が明確ではなく、むしろ広い知識を持った技術者が求められています。従来、工業化学科が物質工学科に改組改編した際に、学生は4年次に「材料化学コース」と「生物化学コース」を選択し、各コースの専門科目を履修してきました。しか

しながら、前述のように広い知識を持った技術者育成のために、コース別教育には限界があると判断し、平成21年4月から平成20年度在籍3年・2年・1年生を対象に講義科目を並列開講から直列開講へと移行します。即ち、例えば5年生の科目である「有機材料化学（材料コース必修）」と「酵素工学（生物コース必修）」が同時開講であったものを別時間帯で開講することにより、互いの講義を学生は受講できる配慮を実施します。以上のように教員組織の変動と講義開講の変動に伴い、学生の教育の質を低下させることなく教員一同切磋琢磨しているところです。また、今年度より低学年教育の創造性を重要視し、1年生の「物質工学入門」においてはChemistryに固執することなく、答えのない課題に対して自ら工夫・解決して自己完結する授業を実施しております。

物質工学科のさらなる発展を教員一同築いていく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



平成20年度をふりかえって

教養科長
勝山智男

高専生は、同じ年代の高校生や大学受験生と比べると、（幸か不幸か）自分の実力を客観的に評価する機会には恵まれません。しかし、ここ数年の間に、英語、数学、物理の諸教科において、さまざまな統一試験が相次いで導入されました。平成20年度には、1、2年生では英語のBACE(Basic Assessment of Communicative English)テストとACE (Assessment of Communicative English)テスト、3年生では数学および物理の学習到達度試験、さらに4年生では英語のTOEIC-IPテストと数学の全国工学系学部数学統一試験がそれぞれ実施されました。学生諸君は、こうしたテストの結果を、自分の実力の把握と勉強の管理に活かして行ってほしいと思います。

同じくここ数年の間に、必修科目の意味が厳格になりました。必修科目が、卒業や進級に不可欠な科目として厳格に位置づけられたのです。このことにより、進級するのに苦勞を感じる学生諸君もあるかと思えます。必修科目のほとんどは基礎科目です。技術者を取りまく社会の情勢が急速に変化している今、基礎の大切さは論を待ちません。学生諸君には、必修科目の学習を通して、基礎をきちんと身につけるよう精進していただきたいと思えます。教師の側も、再評価や補習、補講などのフォローアップには力を入れる覚悟ですが、補習など受けずに越したことはありません。高専の科目のほとんどは、「授業」+「予習復習」で理解できる程度に設定されています。ぜひ、日ごろの勉強計画をもう一度見直して、

自分に必要な勉強時間を確保していただきたいと思えます。

昨年度から手がけていた工学基礎教育の外部評価が、本年度に完了いたしました。地元の教育関係者の方、本校の卒業生を受け入れてくださっている地元企業の方、それに大学や高専の研究教育関係者の方々に評価委員になっていただき、工学の基礎科目である、数学・物理・化学の教育プログラムについてチェックを受けました。その結果、本校の工学基礎教育のプログラムは、優れた内容であると高い評価をいただきました。今後も自信を持って、現在の教育プログラムを発展させてゆくとともに、この機会に委員の方々からいただいた、さまざまな面からのご意見、ご助言を今後の教育改善に役立てていきたいと考えております。

最後に、本年度を以って、沼津高専を去る教員が2名おりますことをご報告いたします。数学の相原義弘教授と堀江太郎講師です。相原先生は、永年、本校の数学、応用数学および専攻科の数学を担当されてきて、その薫陶を得た卒業生も多いと思えます。来年度からは福島大学に移られ、さらに教育と研究にまい進することと思えます。堀江先生は、高専間教員交流事業により鈴鹿高専から沼津に移り、2年間沼津で教鞭を取ってきました。独立行政法人化以後、国立高専は一つの機構としてまとまりはしましたが、各高専間の情報交換はそれほど進んではいません。この機会に、堀江先生からは鈴鹿の良いところをいろいろ学ばせていただきました。堀江先生には、ぜひ沼津の経験を鈴鹿での教育活動に活かしていただきたいと願っております。この4月には、高専間教員交流事業によって米子高専に行っておりました数学の西垣誠一教授が3年間の任期を終えて帰ってきます。米子での経験を活かし、沼津高専に新風を吹き込んでくれるものと期待しております。



平成20年度の専攻科総評

専攻科長

芳野 恭 士

専攻科生ご父兄の皆様には、日頃より本校専攻科の教育活動にご理解とご協力をいただき、大変有難うございます。本校専攻科は平成8年度に設置されて以来、本年度で13年目を迎えました。専攻科では、前後期ごとに単位・修了認定を行っており、平成20年度9月期の修了生まで、これまでに延べ234名の学生が専攻科を修了し、企業への就職あるいは大学院への進学等を果たしています。平成21年1月現在での在籍学生数は、1年生34名、2年生32名の計66名であり、4月にはあらたに約30名の入学者を迎える予定です。専攻科を担当する66名の教員は、定期的に大学評価・学位授与機構の審査を受けており、この内には技術士3名、10年以上民間企業における技術者としての経験を有する教員9名、博士48名を含んでいます。専攻科の教育システムは、3つの専攻を合わせて「総合システム工学」という単一の教育プログラムを学生に提供し、本科で身に付けた各分野の専門知識や技術をベースに、他分野の学習も行わせることでより視野の広い技術者の養成を目指しています。この「総合システム工学」プログラムは、本科4、5年の教育課程と合わせて、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けています。学生自身の学力についても、大学評価・学位授与機構の審査による学士の取得を修了要件としていることから、教員・教育システム・学生のそれぞれが

第三者による評価、認定を受けていることとなります。専攻科では、多くの科目について履修学年や専攻の枠を取り払い、個々の学生ごとに学士申請の分野に合った受講科目を選ぶことができます。座学は午前のみで、午後はずべて実験・演習・研究・自主学習に当て、さらには「工学倫理」や「専攻科実習」（インターンシップ）によるモラル教育を含めてより実践的な技術者の養成を目指した教育プログラムとなっています。このような教育の成果として、1、2年生ともに専攻科生1名につき年間にはほぼ1件の学会等での発表を行うようになりました。平成20年12月には、東海大学・静岡県立大学・富士常葉大学等との合同研究発表会が行われ、そこでも専攻科生が38件の研究発表を行っています。また、これまでに、化学工学会学生発表会優秀賞や日本高専学会論文奨励賞優秀賞、IEEE DEIS日本支部学生優秀論文発表賞等を受賞する学生も出ています。研究テーマの面でも、今年度の専攻科生の約半数が外部の企業や大学等との共同研究に加わっている状況です。そのため、専攻科修了生は、進路先である企業や大学院から高い評価を受けるようになってきており、大変喜ばしく感じています。平成20年度3月期修了予定者30名はすでに全員の進路が決定しており、就職内定者は23名（オムロン(株)、東京電力(株)、(株)コマツ製作所、スズキ(株)、川崎重工業(株)など）、大学院等への進学者は7名（東京工業大学大学院、北海道大学大学院、筑波大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学など）となっています。これからも多くの本科生が、専攻科を大学と同様に進学の重要な選択肢として捉えてくれることを期待しています。今後も教職員一丸となって、より高いレベルの技術者教育を目指して参りますので、沼津高専専攻科をよろしくお願いたします。

部 活 動

第43回全国高等専門学校体育大会

種 目	種 類	全 国 大 会	
テ ニ ス	男子個人 (シングルス)	第 3 位	C 4 江崎 拓真
水 泳	200mバタフライ	第 3 位	E 3 遠藤 雄也
	100mバタフライ	第 2 位	E 3 遠藤 雄也

第46回東海地区国立高等専門学校体育大会

種 目	種 類	地 区 大 会		全 国 大 会
陸 上 競 技	男子5000m	優 勝	M 1 福田 克也	(全国大会出場)
		第 3 位	S 1 増川 隼人	
	砲丸投げ	第 2 位	S 3 矢原翔太郎	(全国大会出場)
バスケットボール	男子	優 勝		(全国大会出場)
テ ニ ス	男子団体	第 3 位		
	女子団体	第 3 位		
	男子個人 (シングルス)	優 勝	C 4 江崎 拓真	(全国大会出場)
	女子個人 (シングルス)	第 3 位	S 5 畷野沙亜耶	
卓 球	男子団体	優 勝		(全国大会出場)
	男子個人 (シングルス)	優 勝	C 3 石川 岳	(全国大会出場)
サ ッ カ ー		優 勝		(全国大会出場)
ハンドボール		第 2 位		
柔 道	団体	第 3 位		
	個人の部 (73kg級)	第 3 位	S 3 小林 亮太	
	個人の部 (90kg級)	第 2 位	E 4 山梨 寛弥	
剣 道	男子団体 (勝抜き戦)	第 2 位		
水 泳	総合	第 3 位		
	400mリレー	第 2 位	E 3 遠藤 雄也 E 2 林 弘樹 E 4 鈴木 慶 D 2 杉山 和暉	
	400mメドレーリレー	第 3 位	S 3 紅林 大地 D 2 馬飼野祐貴 E 3 遠藤 雄也 E 4 鈴木 慶	
	800mリレー	第 2 位	D 2 杉山 和暉 E 5 石塚 達雄 E 2 林 弘樹 E 4 鈴木 慶	
	800m自由形	第 2 位	E 2 林 弘樹	(全国大会出場)
	200m背泳ぎ	第 2 位	S 3 紅林 大地	(全国大会出場)
	200mバタフライ	優 勝	E 3 遠藤 雄也	(全国大会出場)
	200m個人メドレー	第 2 位	E 2 林 弘樹	
	100m自由形	第 2 位	D 2 杉山 和暉	
	100mバタフライ	優 勝	E 3 遠藤 雄也	(全国大会出場)
	50m自由形	優 勝	D 2 杉山 和暉	(全国種目なし)
	女子400mリレー	第 3 位	C 4 滝 幸奈 M 1 手嶋 里帆 C 5 池谷麻衣子 C 5 宮内 妙子	
	女子50m背泳ぎ	第 2 位	C 4 滝 幸奈	(全国大会出場)
	バドミントン	男子団体	第 3 位	
男子ダブルス		第 3 位	C 4 大貫 俊慶 C 4 大原 哲矢	
男子シングルス		第 3 位	C 4 大貫 俊慶	
女子シングルス		第 3 位	C 1 佐野 友美	
弓 道	団体	第 3 位		
	総合	第 3 位		
空 手	団体 (組手)	第 3 位		
	男子個人 (組手)	第 2 位	E 3 高田 智之	

全国大会出場報告

夏

サッカー部部长 物質工学科5年
木 暮 瑛

私達サッカー部は昨年8月に北海道で開催された全国高専大会サッカー選手権に向けて、平成19年9月に新チームで始動しました。「過去二年間の高専大会で良い成績を残すことができなかつたのは、新チーム発足の秋から冬にかけて練習を怠ったからだ」という教訓を無駄にしないようにしようと、最初のミーティングで話し合い全国大会を目指しました。しかし、いざ練習を始めてみると上級生が半分も揃わないという状況が続いたせいか、練習試合で思うような成績を残すことができず、冬になっても依然としてチームが変わることはありませんでした。

そんな中、高専大会まで残り3ヶ月となった4月、今まで2人しかいなかった5年生にもう1人メンバーが加わったことがきっかけでチームがまとまり、普段の練習に加え夜8時過ぎまで残って練習する日々が続きました。そして、春からの練習量に自信を持って望んだ東海大会が岐阜で開催されました。

東海大会は、台風直撃の昨年度とはうってかわって猛暑の中での開催でした。大会は総当たり戦で、真剣勝負4試合を2日間で消化するという過酷な日程の中、今年度のチームは選手層も薄く、レギュラーの中にも初めての高専大会に出場する人が多いという不安を抱えながら試合は始まりました。今年は4つのチームの力が均衡していると言われ、その中で全国大会出場権を手にすることが出来るのは1チームのみなので、優勝だけを考え一戦一戦を大切に戦っていきました。初戦に快勝した私達は、その後の試合も2勝1分で終え、東海地区優勝・全

全国への道のり

バスケットボール部 電子制御工学科4年
早 苗 駿 一

平成20年7月5、6日に高専大会東海地区予選バスケットボール競技が富士市で開催されました。この予選は東海地区の5高専が全国大会への出場権をかけてリーグ形式で競うというものです。

僕たち沼津高専はこの予選で優勝し、8月23、24日に北海道旭川市で行われた全国高専体育大会に参加してきました。しかしこの全国大会への切符を手にするまでは決して簡単な道のりではありませんでした。

現在は部員数30人以上という大きい部活ですが3年前

全国大会出場権を手にすることができました。

全国大会までの1ヶ月、私達は合宿に入り公私ともにサッカー部で過ごす時間が増え、良い雰囲気ですサッカーに打ち込むことができました。この合宿では、朝から夜までのハードなトレーニングや、高校生や大学生との練習試合、本番に向けた芝での練習など、全て自分達の糧になるものと信じて練習に打ち込みました。合宿が終わる頃、チームの結束力は高まり、みな自信に満ち溢れ、たくましく見えました。そして全国大会の地、北海道苫小牧へと旅立ちました。今年は飛行機での移動となり、また北海道へ行けるという楽しさで、合宿の疲れはみんな吹っ飛んでいました。

苫小牧の会場は私達が予想していたよりもずっと寒く、夏の常識を変えられた印象でした。初戦、私達は神戸市立高専と当たりました。神戸市立高専は全国大会に何回も出場している言わば常連校で、非常に息のつまる厳しい戦いになりました。試合は延長までもつれ込み、全国大会のレベルの高さを痛感しました。結果は3-1で勝利し、二回戦へと駒を進めました。

翌日の二回戦では、毎年優勝争いに入る鹿児島高専との対戦でした。一回戦でレギュラーの大半が負傷を抱え、アイシングをしている状態でした。非常に寒く冷たい雨にもみまわれる天候の中、結果は0-5と敗れ、私達5年生のサッカー部での年月は終わりを迎えました。

今年度サッカー部では二度の大きな問題が発生し、周りの方々に多大な迷惑をかけてしまいましたが、なんとかここまでやってくることができました。それもこれも全部、顧問の先生方や監督が私達のために動いて下さったおかげです。本当にありがとうございます。また、入部当初から多くの同級生が辞めてしまい後輩に頼りっぱなしの私達に付いてきてくれた下級生やマネージャーにも本当に感謝しています。次の新チームはその頼れる5年生が沢山いるので、最高の夏を過ごして欲しいと思います。

の春合宿の際は1年生6人と3年生1人という7人しかいませんでした。人数が少ないため走る事が中心の練習のなか、3週間の合宿をやり抜くことができたのはその合宿に3年生の先輩が1人参加して僕たちを引っ張ってってくれたからだと思います。この合宿は僕の基礎となっています。

その後新入生が入り部員が増えたことはとても喜ばしいことでした。しかしここで新たな問題に直面しました。それは練習メニューについてです。今までは人数が少なかったため練習で動き足りないということはありませんでしたが部員が増えてからは1人1人がボールを使える時間が減り、充実感のある練習ができずにいました。そんなとき、同学年の4人で話し合いながら少しずつ改善していったことはとてもよかったと思います。

今回全国大会へ向けての試合に出場したのはほとんど

が3、4年生でした。3、4年生は普段、授業や実験、実習などが長引くことが多く練習のはじめに部員全員がそろおうということはほとんどありませんでした。全員そろわなくても自主的に練習を始めたことや、もともと短い練習時間を授業等で削られながらも残りの時間で成果を得ようと練習に必死になって取り組んだことが普段の練習を充実させたと思います。

1人でどんなに考え、一生懸命行動してもできることには限界があります。しかしどんな状況でも各人が良くしようと少しでも考え、行動することで改善されていくと思います。日々の練習を各人が意識して行ったことが今回の全国大会出場という結果につながったのではない

かと思います。

スポーツなどの相手があるものは努力がいつも報われるというわけではありません。しかしこのような結果を残せたことは僕たちへのプレゼントのようなものではないかと思います。

僕は一緒に部活をやっている仲間を支えられてここまでできました。決して能力が高くない僕が部長として今、ここにいることができるのはこの仲間がいたからだと思っています。そんな沼津高専バスケットボール部は僕にとって心が安らぐ場所のひとつだと思っています。多くの部員にとってそんな部活であつたらうれしいです。

全国高専大会の報告

卓球部 物質工学科3年
石川 岳

今年の卓球部は東海高専大会でシングルス・団体優勝という成績を収め、全国大会への出場を果たしました。私は自分が部長を任された時期に、このような成果をあげることができ大変うれしく思います。そしてここでは、全国大会の報告と共に、私がこの大会で感じた事を書かせてもらいたいと思います。

しかしその前に、卓球の全国大会がどういったものか簡単に説明させていただきます。全国というのは全部で北海道、東北、関東信越、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州沖縄の9つに分類されます。そしてシングルス、ダブルス、団体のどれでも各地域1組ないし2組が出場することとなります。他の地域は分かりませんが、東海大会シングルの部ではおよそ70人の参加者がいました。上記のことから分かると思いますが、全国大会への門は物凄く狭いです。つまりこの大会は高専生の中でも精鋭中の精鋭だということです。

さて肝心の結果ですが、正直言ってあまり満足のいくものではなかったと思っています。団体戦では徳山高専・釧路高専と試合をしましたが、釧路高専には辛勝、徳山高専には惨敗。シングルスでは4人の予選リーグで三つ巴になってしまい、結局3位。どれも自分の卓球をやら

せてもらえなかったのを覚えています。しかし私は悔しいとは思っていません。というよりは思う資格はないと思っています。悔しいという感情は、試合直前まで必死に練習してきた人だけが持つべきものです。そして私にはそれができませんでした。だから終わった瞬間に浮かんだ感情は、ただの無力感だったと思います。

ではなぜ勝つことができなかったのでしょうか。個人の能力という点を除けば、その原因は部活動全体の意識の低さにあると思います。そもそも此処、沼津高専では部活動の占める重要度が（個人差がありながらも）それほど高くはありません。やれ勉強だ、やれ寮だ、じゃあ部活は行っても行かなくてもいいや、という感じになっています。こんな雰囲気や密度の高い練習ができるはずもありません。それでいながら試合で負けた時だけいっちょまえに悔しがるといのは滑稽なだけでしょう。もし本当に勝利したいのなら、あらゆるモノを利用して己を磨くべきです。自分が弱者であることに甘えてはいけません。自分が強くなることを恐れてはいけません。常に上を見続けるその意識こそが、本当の意味で強くなるための第一歩なのだと思います。

偉そうなことを書かせてもらいましたが、この文章が誰か一人でも変わるきっかけになったら嬉しく思います。最後に、今まで支えてくれた部員達、OBの方々、顧問の先生、学生課の皆様、寮事務の方々、食堂のおばちゃん、そして保護者の皆様に、感謝の言葉を申し上げたいと思います。

「ありがとうございました。」

全国大会へ出場して

陸上競技部部长 機械工学科3年
福田 克也

去年の8月に行われた全国高専大会の5000Mの種目に出て自分が実感したことは、まだまだ力不足だなということでした。一昨年の冬休みと去年の春休み、夏休みは、

強化練習や合同合宿を行い、特に去年の夏休みの長野県富士見高原での合同合宿は3泊4日行い、1日40キロ以上走るということを目標に行い、普段の練習は早朝練習、本練習を行い日々練習に励んできました。去年の7月に行われた東海地区高専大会の5000Mで優勝することができたのは、これらの練習の成果が表れ、なおかつ自分自身のモチベーションを高くもち、調子がよかったから、優勝できたのだと思います。小学生から陸上を始め中学生の頃は、800Mを中心にやっており、高校は中距離中心

にやってくる初めて5000Mに出場するので競技開始前はとても不安でいっぱいだったのですが、優勝できたので嬉しかったです。沼津高専に入って、1年生のときに自分は全国高専大会に出たいと思っていたのでそれが実現できて良かったです。しかし、全国高専大会では自分自身の調子が悪く、弱い部分があったから、悔しい結果となってしまいました。でも全国高専大会では、試合を見て多くのことを学ぶことができました。速い選手の行動を見て盗める部分は盗んで自分のものにしていきたいと思いました。だから、今年の高専大会は、リベンジの年

テニス部近況報告

テニス部 物質工学科4年
江崎拓真

今年度の高専大会の戦績及び近況、これからの抱負を報告します。今年の東海地区高専大会は例年より少し早い6月下旬に行われました。今年で3度目の出場となった私は期待される男子シングルの3連覇と団体での全国大会の出場を確信していました。1年生の頃から共に練習に励んできた仲間との最後の高専大会になるかもしれないという事で選手は勿論、応援やサポートをする部員たちの気持ちは今まで以上に熱いものだったからです。さらに今年は去年卒業した先輩たちが大勢、応援に駆けつけて来てくれ、改めて、この大会での勝利の重要性和熱意を感じました。結果はどの試合もお互いに一步も譲らず、最後までわからないものばかりでしたが全国大会への切符は私の男子シングル以外の全種目を鈴鹿高専に押さえられてしまいました。残念な結果ではありましたが私は試合をする選手達の側で応援や水分の補充、ボールパーソンやその他選手のサポートを自主的にする部員をたくさん見ることが出来ました。男子シングルの試合では部員による鳥肌が立つほどの応援を受け、弱気な私の心の支えとなってくれました。毎年選手として出場

3度目の全国高専大会

水泳部 電気電子工学科3年
遠藤雄也

今回、僕は3回目の全国高専大会に行かせてもらいました。結果は100mバタフライで2位、200mバタフライで3位という好成績で、初めて表彰台に上ることが出来ました。

去年、一昨年も全国大会には出場していましたが、後一步及ばず表彰台を逃していました。去年は4位でしたが、そのときは4位と3位の差をとっても実感しました。

でもあります。最近、高専の陸上競技のレベルが上がってきています。東海地区は特にレベルが高いので、怪我をしないで練習を毎日することが大事です。来年度、4年生になると、高校生の大会には出場できなくなるので、試合数も減ります。だから今年目標は、全国高専大会で入賞することと市町村駅伝に出場することです。今よりもっと、強いチームを作っていきたいと思っていますので、沼津高専陸上競技部の応援を、よろしくお願いします。

している私あまり偉そうなことは言えませんが、私はこのすばらしい仲間たちに感謝しなければならないと共に沼津高専テニス部で出会うことが出来て幸せだと思いました。先輩と後輩が互いに思いやることができ、一つの目標に対して団結して挑む今のテニス部の姿勢はこれからも伝統として受け継いでもらわなければならないと思いました。全国大会男子シングルスでは去年と同様3位に終わりました。

高専大会が終わりこの最後の1年間を振り返ると、とてもたくさんの出来事を思い出します。先輩たちが引退してから練習内容や部員の意識の低下、出場選手の決定などさまざまな問題がありました。部活の運営を部長だけに任せるのではなくほかの部員も関わるようにすることを心がけ、遊びの場でもつい部活のことで討論会を始めてしまうほど皆、熱心に意見を出し合うようになりました。上手くいかないことの方が多かったように感じますが皆で試行錯誤してきたことが良い思い出と経験になったと思います。

最後に今年もテニス部の活動に関して本校教育後援会や同窓会よりご支援、ご声援を頂き、大変感謝致しております。私は来年の高専大会には、目指す進路によっては出場できないかもしれませんがその分、出場選手やその他部員たちのバックアップが出来たらいいと思います。多くの方々の期待に応えるべく来年こそは結果を残せたら良いと思います。

3位になれば表彰台にあがれるのに、4位では表彰の様子をただ遠くから見ていただけ…。これでは4位でもビリでも一緒だと、そのときに



思いました。そのときから僕は表彰台に立つことを目標に、日々練習を積み重ねていました。学業との両立は正直大変でした。寮に居た頃とは違い、毎日のように練習をさせてもらっていたので、練習量は増えましたが、その分自分の時間が減り、宿題やレポートを書くだけで精一杯でした。それでも僕は沼津高専の水泳部員として表

彰台に立ちたかったので、一心不乱に泳ぎ続けました。

東海大会では、いつもの見慣れたメンバーとわいわい泳げました。急にすごく速い選手が出てきたりするので緊張もしましたが、それでも東海大会では、100m、200mともに1位だったので安心しました。

そして、全国大会ですが、東海大会のときに豊田高専の方達を中心となって、「東海地区のメンバー全員を一緒

に応援しよう」ということになっていました。実際に泳いでみると、泳いでる最中もみんなの声援が聞こえました。そのお陰で、見事表彰台に乗ることができました。1位でなかったのは不本意でしたが、あと2年のうちに表彰台の一番上に登りたいと思っています。そして、沼津高専のリレーメンバーでも全国大会に行けたらいいなと思っています。

行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

体育祭実行委員長に昇格して

体育祭実行委員長 機械工学科3年
石川 翔太

前期の体育祭では、僕は副実行委員長でした。体育祭の2週間前から本格的な準備を始めました。委員長の田村君と、補佐の後輩たちと一緒に事務的な仕事を行っていました。前日からは委員会の1年生達を交えての準備。テントを設営したり、道具を運び出すのが主な仕事です。しかし、前日の雲行きが怪しく、当日に雨の予報が出たため、最低限の仕事のみ行い、後は当日の天候に合わせて準備を行うということになりました。結局、当日の朝には雨が降ってしまい、外競技は中止ということになりました。体育祭で雨が降ったのは僕が1年のとき以来だったので、事前に予期していたとはいえ、混乱が発生してしまいました。さらに、平日に行っているため、専攻科では授業が行われていたために、放送が使えず連絡が全体に行き渡らずにさらなる混乱を招いてしまいました。そんなとき、補佐の学生が走り回って、各競技場所で対応してくれたために、ある程度のところで止めることができました。また、今年の1年生は自ら仕事を探して働いてくれたために、仕事がスムーズにできました。それだけに、仕事のない1年生が生まれてしまい、晴れなかったことが悔やまれました。反省点がたくさん出て、改善点について話し合っている矢先に、顧問の先生から

「委員長が事故にあっていつ退院できるかわからない。後期、動けるようにしておいてくれ。」と、言われました。その後、委員長が一時的に退院してきて、話をした結果、後期は体育祭実行委員長の代理をすることになりました。夏休み前にはなるかもしれないと言われてはいましたが、正式に決まったのは体育祭の1ヶ月前。慌てて準備をしたものの勝手がわからずミスと混乱の連続でした。しかし、急遽、副実行委員長をやってもらった後輩と補佐達の助けを借りて、なんとか前日を迎えることができました。しかし、前日は雨。次の日までふるとのことでした。先生と相談をし、前日の内に外競技の中止を決定し、当日に晴れた場合のみテニスコートでドッチボールを行うことにしました。そのため、前日の準備は道具の確認だけにして当日の朝、他の仕事をすることにしました。当日は何とか晴れてドッチボールはできることになり、色々の変更点を記した紙を配布しましたが、その中でも混乱が生じてしまいました。しかし、今度は、体育科の先生の協力、1年生の頑張りにより、スムーズに進行することができました。1年のときから体育祭実行委員をしていましたが、こんなにスムーズに終わったのは初めてだと思います。僕達、体育祭実行委員はあまり競技に参加することができません。その代わりに学生が楽しんで行えたらうれしいです。今回、突然の昇格でしたが、先生、体育祭実行委員、学生会、事務の方々の協力がなければ絶対に体育祭を行えなかったと思います。本当にありがとうございました。最後に、僕は雨男だったのかもしれませんが。特に5年生、1年生のみなさん。2回の体育祭が雨で外競技ができなくなってしまって申し訳ありません。

高 専 祭

高専祭を終えて

高専祭実行委員長 電子制御工学科5年
川 船 雄一郎

まず始めに、今年度の高専祭にご来場下さった保護者

の方々、周辺住民の方々を始めとし、あらゆる面においてご協力下さった方全てにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

今年度の高専祭は、高専祭にとって再出発の年となりました。昨年度の高専祭は、技能五輪と併催という形で行われたため、例年に比べ非常に多くの方がご参加下さった一方、その重要性により制約も多く苦労する場面が多々ありました。しかしながらその経験は普段の高専祭では決して味わうことができるものではなく、これを通じ昨

年度の高専祭スタッフは例年以上の成長をすることができたように感じられました。

そして今年度の高専祭が、その力をつけたスタッフ達による最初の活躍の場となりました。過去最短とも言える程の準備期間であったにも関わらず、素晴らしい祭を作り上げたスタッフには本当に感謝しています。

私は沼津高専に入学して以来5年間、毎年何らかの形で高専祭に携わってきましたが、その中で特に強く考えさせられたのが「変わること」と、逆に「変わらないこと」の重要性でした。高専祭の歴史と比べ、私の経験した5年間はあまり長くもない期間ですが、しかし私が1

年生の頃から比べると様々な点が変わりました。それが良いという意見も悪いという意見もありますが、どうしたら良くなるのか、変えてよいのか悪いのかを考え自分達で祭を創り上げていく高専祭は、千変万化する工業という分野を学ぶ高専の学園祭として相応しいものだと思います。現在の高専祭は過去からの伝統の上であり、今まさに最先端でもあり、今後の高専祭の礎となるものであること。その事を深く感じる祭でした。

今回の祭は終わりましたが、共に活動した後輩達、そして来年の新入生がきっとより素晴らしい高専祭を創っていきます。どうぞ皆様、高専祭の今後にご期待下さい。

3年合宿研修

3年合宿研修

3学年担任合宿研修担当 宮内太積

今年の3年合宿研修は、岐阜県高山市の乗鞍青少年交流の家で、3年生200名と付添教職員13名の計213名が参加して行われました。例年より1週間ほど早く冬季休業中の1月6日から9日までの3泊4日、朝早くから夜遅くまでの研修となっています。ここは青少年が利用する体験型の施設のため、利用方法や時間・清掃などの規則や講演会・集いなどお堅い研修がありますので、これにスキー教室や学生自主企画のレクリエーションなども取り入れ、規律ある生活の中にも和やかに過ごすように工夫してあります。また、この研修中は学生にとって片時も手放せない携帯電話・携帯ゲーム機などの持ち込みを禁止にしたため、普段と違った研修になり有意義に過ごすことができたと思います。

現地の人の言では「この時期は天候に恵まれることは数日しかない」ということでしたが、スキー教室の行われた2日間は全くの快晴で、グレンデの最頂上では上るたびに白山・穂高連峰が眺望できました。このようなことは何回か参加している私でも初めてのことでした。また静岡に住んでいますと見慣れている夕日も、冬のシーズン中は乗鞍では滅多に見ることもできないそうです。



今回は幸いにも素晴らしい夕日を見ることができました。このような天候の中グレンデの状況も非常に良好でした。とはいえ、発熱などの体調不良者が出まして、このうち数名がインフルエンザの疑いもあったため高山市街までタクシーで降ろし病院で診察して貰いましたが、たいしたこともなく済みました。また、怪我についても骨折する者はなく捻挫程度で済みましたので、無事終了できたことにほっとしています。

例年行われているこの研修で、今年初めて「全体研修」を取り入れました。科別研修に加え、全学科で統一して物事を考えるという趣旨で渡辺敦雄先生（物質工学科）に「技術士への道」と題して、技術士になることの重要性を丁寧に講演していただきました。小林隆志先生（機械工学科）には「沼津高専JABEEプログラム総合システム工学への入学」のガイダンスをお願いしました。小林先生は、まもなく進級すると始まる「総合システム工学」課程について様々な資料を用いて解説され、「沼津高専の第3学年から第4学年への進級は、同時に総合システム工学プログラムへの入学を意味しています。このことを十分に自覚し、第4学年進級後の学習に備えて心構えをしてください。」と締め括られました。

最終日は「世界遺産 白川郷」の見学が実現しました。合掌造りの古い家並み・雪の中の静かな佇まい・厳しい生活環境を見るにつけ、雪の降ることも最近ほとんどなくなった静岡で生活して暮らせることに感謝する気持ちを新たにしました。

研修期間中に全学生からアンケートをとりましたが、



全体を通じての学生の感想は好評で満足度も非常に高いものでした。以上を鑑み今回の研修の3つの目的である、1：己に挑戦し、物事を成し遂げる大切さを学ぶは、スキーなどを通じて困難さの克服(体)。2：高専生活の意義を見直すは、全体研修などを通じて学んだ知識を進級

後に活かす(知)。3：親睦を深め、お互いを認め合うは、他団体との交流と学生同士の親睦を深めることができた(徳)という「知徳体」が、当初の目標通り達成された研修だったと思います。

学生の感想の一部を掲載しますのでご覧ください。

3年合宿研修に参加して

機械工学科3年 田邊 渉

1月6日から9日までの4日間、岐阜県乗鞍へ合宿研修に行ってきました。研修内容はスキー、白川郷見学、身障者についての講演会などです。

6日、集合時間は7時45分。皆厚着をして暖かそうでした。バスガイドさんに挨拶をして8時に沼津高専を後にします。道中は問題もなく岐阜県に入り、辺りに雪が見えるころには皆のテンションは絶頂でした。P.A.で雪合戦をする人さえいました。宿に着いたのは16時前。雪に覆われた乗鞍青少年交流の家です。初日は到着が夕方ということもあり、入所式、食事後の全体研修では渡辺先生から技術士に関する話を聴きました。沼津高専専攻科を卒業すると技術士試験の一次試験が免除されるそうなので是非その特権を活かし技術士になりたいと思いました。小林先生の話は来年度から更に専門教科が増えていくという話でした。将来実用するであろう知識を多く学べると思うのでより一層頑張って取り組みたいです。アイスプレーキングはスキー班別に行いました。初対面の10人でしたが自己紹介に始まりちょっとした遊びを経て、最後には打ちとけられました。大浴場にはステンレスの大きな浴槽がありました。入浴をすませ、早々に寝支度を整えました。就寝時間は22時30分でしたが、やはりなかなか就寝せずに怒られている部屋があったようです。部屋は過ごしやすく、よく眠れました。

2日目の起床は6時30分。早朝の外の気温は零下10度。廊下や体育館は冷え込みました。体育館で朝の集いを済ませ、掃除の後朝食をとり、いよいよスキーです。陽射しが強く、良い天気です。当日は5学科総勢200人から一班10人ずつ、計20班で、別々のインストラクターに教わりました。もちろん話をしたことのない人も一緒に班にいました。しかし同じくらいの実力でまとめられていたこともあり、打ち解けあえた班が多かったようです。初

日はプレーキ練習、曲がる練習と、初歩的な練習が多かったですが、それでも皆楽しめたようです。また、経験者の班は早くから中級者コースを滑っていました。

15時30分にスキーを終え、夜は講演会です。講堂で話を聴きましたが、池上さんの講演は身障者の何たるか、心の障害者になるな、というものでした。先生の講演のように、たとえ障害があっても、立ち向かい乗り越えていけるようになりたいです。今日も無事終わり、就寝です。慣れない運動を長時間したせいか、この日は皆早く寝ました。

3日目も同じく、早朝に起床。気温は零下6度で、2日目より若干暖かめです。朝の集い、掃除を行い、スキーの準備をして外に出ました。2日目なので皆快調にすべります。午後には中級者コースに行けた班も多かったようです。15時に名残惜しげにスキー用品を返却しました。この日の夜はレクリエーションが行われました。内容は「王様ドッジボール」です。各クラスの担任が王様となり、王様を当てたら勝ちです。結果は機械工学科が優勝!!おめでとうございます。その後クラス別研修で合宿研修のアンケートを行い、就寝しました。

4日目、最終日は雪が降っています。早くに起きてベッドの片付けをします。朝の集いを終わらせ、各部屋、担当掃除場所を念入りに掃除しました。備品等を返却し、講堂で退所式。笑顔で青少年交流の家を出発します。11時過ぎに世界遺産白川郷に到着。合掌造りを見て回りました。見学時間が1時間と短い間でしたが、綺麗な雪景色を堪能できました。

帰りのバスでは疲れて寝ている人が多くスキーの余韻が窺えました。沼津高専に到着したのは18時。こちらは雨です。バスガイドさんに別れを告げ、解散となりました。

全体を通すと、良い合宿研修だったと思います。慣れない土地で慣れないスポーツを共にしたことで、協力心が芽生え、いろいろな人と話ができました。為になる話を聴き、レクリエーションを行い、友達と夜を過ごす。様々な思い出のできた合宿研修でした。

ロボットコンテスト2008

ロボコン部の2008年

ロボコン部顧問 電気電子工学科
望月 孔二

いつも皆様にはロボコン部の応援をしていただき有り難うございます。この報告では、今年度の特別な取り組みである「モノ作り・人作り地域フォーラム」への参加と、例年のアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（NHKロボコン）への参加につきまして書かせていただきます。

「モノづくり・人作り地域フォーラム（8月6日・東京国際フォーラム）」は、中小企業基盤整備機構が、経済の活性化を目指してここ何年か実施してきたものです。タイトルの中の「モノづくり」の優れた例として高専ロボコンを取り上げて下さいました。そして、本校に参加の問い合わせをして下さいましたので、部員の学生にも相談し、参加させて頂いたものです。他にはサレジオ高専のロボコン部も参加されました。

会場では、ステージ上でパフォーマンスをいたしました。両高専が持ち込んだ、前年度のNHKロボコンへの参加ロボットで、競技を再現するとともに、学生にインタビューがありました。

こうしたイベントに参加できたことは、少しは社会貢献に役立てたものかと思います。今後も、こういった機会がありましたら、参加していきたいと思っております。

NHKロボコン2008のテーマは「ROBO-EVOLUTION



生命大進化」という競技で、4つの課題をクリアするものでした。最初は、多足歩行によってパイロンを1周します。続いて、ハードルを越えます。続いて、二足ロボットに変身しながら20秒のパフォーマンスをします。そして最後は、二足歩行によってゴールします。

これまでのロボットは通常、足回り部分と、何らかの働きをする上の部分に機能を分割していました。ですから、動くだけならなんとかできたのです。ところが今年の課題は、足で動くロボットを作ることが課題であり、しかも二足歩行までこなさなくてはならないことから、例年とはまったく異なる難しさでした。

沼津高専の2チームを紹介します。

Aチームは童話のさるかに合戦からヒントを得て作った「サルカニワッショイ」です。多足歩行する蟹ロボットと、二足歩行する猿ロボットから成り、最大の挑戦は、猿ロボットが体を傾けて重心移動しながら行う静歩行でした。

Bチームは富士山に棲む蝶を仮想的に考えて作った「富士蝶（フシチョウ）」です。多足歩行するサナギロボットと、二足歩行する蝶ロボットから成り、最大の挑戦は、蝶ロボットが羽根を広げるパフォーマンスでした。東海北陸大会は、10月に鳥羽で行われました。例年通り参加20チームの内、全国に行けるのは3チームだけです。校長先生を始めとする、保護者・学生・教職員の方々からなる応援団のご声援の中、両チームとも、ベスト8まで勝ち上がることができました。惜しくも全国行きは逃してしまいましたが、「富士蝶」は、生命大進化賞を受賞することができました。

こうした活動をさせていただきますのも、ひとえに、応援して下さいの方々のお陰だと感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。



ロボコン部今年の1年を振り返り…

ロボコン部部长 電気電子工学科3年
國原 一博

今年度1年間、私はロボコン部で部長として活動を行ってきました。今年度のテーマは生命大進化であり、ルールは多足歩行で前半の障害物を超えその後変身を行った後二足歩行でゴールを目指すというものでした。また変身や装飾といった、これまでの機能一点張りロボコンでは重点が置かれなかった点がルールの中に盛り込まれていました。今年度のロボコンのルール上で最も大きな課題となったのが歩行でした。歩行というものは今までのロボコンとは全く違う新しい技術が必要となってきたのです。

この課題をクリアするために私の所属していたBチームではゼンマイ式のおもちゃにあるような比較的単純な機構を利用した足を多足歩行、二足歩行両方に採用しました。『単純な』と言いましたが実際のところ微調整や改良に時間を費やす難しいものでした。自分がマシン製作

歩くロボットをつくって

Aチームリーダー 機械工学科3年
長谷川 智洋

今年度の高専ロボコンは“歩く”ことが大きな課題でした。全国大会へ出場するには、優勝するか、審査員による推薦を受けるかのどちらかです。優勝するためにスピード重視にするか、審査員の目に留まる面白いアイデアを考えるかのどちらかになります。Aチームでは後者を選びました。そのため、だれが見ても歩いていると思うようなロボットを作ることになりました。2種類のロボットを作りました。1つは6足歩行、もう1つは2足歩行ロボットでした。作っていくと次々と問題が発生し、「歩く」ことの難しさに何度も絶望しました。しかし、何が何でも完成させなければならないので、問題が起きるたびに解決させる日にちを決め、大会までに間に合わせようと努力しました。僕らのロボット製作は、アルミの角パイプを切ったり穴をあけたりすることが主で、夏の部

の中で取り組んだのが変身と装飾それぞれの一部です。Bチームは外装、変身は芋虫からさなぎ、そして蝶に変身するというのをテーマに製作しました。私が担当した蝶の装飾では変身の前までさなぎに入っている蝶の羽をいかに広く、綺麗に広げることが課題となりました。自分はこの機構に傘の骨組みなどに使われているリンク機構を使いました。しかし寸法の調整、形状の変更、改良が思っていたよりも難しく戸惑いました。Bチーム全体では今までの技術が応用しづらいこともあってマシン製作が思うように行かず製作予定日時がずれ込み最終的な微調整は大会ぎりぎりということになってしまいました。

大会本番では微調整がぎりぎりまでかかってしまったこともあり不安がありました。しかしマシンはぎこちないながらもよく動きました。大会結果は残念ながら全国大会に行くことはできませんでしたがベスト8と上位とは行きませんが良い結果を残すことができました。そして今年度のロボコンの特設賞である生命大進化賞をいただくことができました。

今は来年度にむけ技術向上、技術の継承を行うため活動を行っています。来年度もロボコン部をよろしくお願ひします。

室は暑く、それが夏休み中ずっと続くので、特に1年生はつらい思いをしました。

地区大会では沼津高専Aチームは2勝し、ベスト8まで進出しましたが、残念ながら、全国大会には出場できませんでした。

東海北陸地区大会では約半分のチームがスタートもままならない状況でした。僕らのロボットもひどい状況でした。6足歩行ロボットは夏休み中には歩くことに成功していたのですが、機構が複雑なため調整に手間取り、練習時間がほとんどありませんでした。2足歩行ロボットは本番で動かすことすらできませんでした。しかしながら、多少問題がありますが、なんとか「歩く」という1つの課題をクリアすることに成功しました。

今年も多くの人に支えられ、沼津高専ロボコン部が活動することができました。顧問の先生方、事務の方々、工場の先生、副校長の森井先生、アドバイスをしてくれた先輩方、応援に来てくれた方々、その他いろんな方にご協力をいただきました。また、部員の働きがなければロボットは形すらできていなかったと思います。ありがとうございました。

第4回沼津高専英語スピーチコンテスト

9月6日(土)、本校「第一視聴覚教室」において、第4回校内英語スピーチコンテストが開催されました。以下がその結果です。

- 1 位 D4 窪田直己 Dance
 2 位 D4 濱村 功 English World
 3 位 C4 宮本潤基 My father and my dream
 特別賞 (校長、事務部長より)
 E3 米山 彩 My visit to MSOE

1位の窪田君と2位の濱村君については、11月22日(土)

に富山商船高専で行われた東海北陸地区高専スピーチコンテストに出場しましたが、残念ながら入賞はなりませんでした。



スピーチコンテスト

電子制御工学科4年 窪田直己

英語のスピーチコンテストも3回目の出場で、そのうえ今年は富山高専で発表することができ、大変貴重な経験に恵まれた。

入学して間もなく先生からスピーチのことを聞き、「度胸試し」のつもりで出場したのが1回目だった。しかし、発表ができるようになるまでには毎年のことだが、本当に苦勞する。まず、日本語で原稿を考え内容を作り上げる。そしてそれを英文に訳すのだが、自分の思った通りの表現が英文ではどうしても表せないと、自分の英語の力不足を感じて何度も悔しい思いをする。その後やっとの思いで英訳した文章を、夏休み中に覚えるのだ。1年生の時は発表台に立った途端に手に汗がにじみ、心臓の音が早くなり、覚えた文章は何度も飛びそうになり、大変な「度胸試し」だったのを今でも覚えている。

2回目の出場は翌年で、初めての時よりも少し慣れも

スピーチコンテストを終えて

電子制御工学科4年 濱村 功

今回で4回目を迎えたスピーチコンテストは僕にとってかけがえのない経験となった。

僕は、第2回のスピーチコンテストから3年連続で出場している。2年の時は「寮」を、3年の時は「祖父の死」を、そして今年は「英語教育」を題材にスピーチした。実は、前の2つの題材に比べ、今回の題材は心から進んで話せる内容ではなかった。現在の教育について否定するような内容を含んでいたし、自分の稚拙な英語で英語教育を語るのには生意気に思われてしまうのではないかと感じたからだ。そんな気持ちならコンテスト出場を

あり暗記した文章は忘れずに言えたが、十分に納得できるものとは言えなかった。

3回目である今年は内容と発表の両方を含めて聞いている人に楽しんでもらえるスピーチを目指した。内容も今自分が心から楽しんでいるダンスについて、その楽しさや素晴らしさが少しでも多く伝わるように努力した。ジョークなども交えながら、自分の思いを最大限伝えるように、最後まで飽きずに楽しんでくれるように工夫した。実際に何度かジョークで会場が笑ってくれたときは今までの苦勞も一気に吹き飛ばすくらい嬉しかった。

スピーチコンテストは準備から考えれば、確かに大変な時間を使って苦勞するが今ではどれもとても楽しい貴重な思い出である。長い間原稿を考え練習し、本番に向かって努力をするとやっとこの考えや思いを伝えられるという嬉しさが込み上げてくるということをスピーチコンテストに出場して経験できた。

最後になったが原稿のチェックや今まで英語の指導にあたってくださった先生方には大変感謝しています。本当にありがとうございました。

辞退しようとも考えた。それでも、担当の林先生は僕の英語教育に対する意見に賛同してくれてスピーチの編集にも力を貸してくれた。スピーチ中に代替案を提案することで、僕の意見の趣旨をスムーズに受け入れてもらう工夫をした。これによって、スピーチ内容に自信を持つことができた。本番では練習不足から原稿を見てしまったが、自分の伝えたいことを言い切ることができた。結果として準優勝となったのは予想外ではあったがとても嬉しく、誇らしいことだった。こうして僕は賞状と共に東海北陸大会の出場権を得た。

東海北陸大会では、昨年度の題材である「祖父の死」を話すことにした。生前の祖父は感謝の気持ちを忘れず、周りを盛り上げることが大好きで、みんなから愛される存在だった。多臓器不全で医者からは生きていないことが奇跡だとまで言われた。94歳での大往生だった。祖父は

僕の誇りだった。だからこそ、東海北陸大会という大舞台で話したいと思った。

スピーチの編集には勝呂先生からの助けを頂き、準備は着々と整っていった。そして11月22日、福井高専にてスピーチコンテスト東海北陸大会が始まった。9人中僕がファーストスピーカーだった。緊張と不安を感じたのは最初だけで、僕は自分なりにスピーチを進めた。途中、

その他イベント

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008に参加して

電子制御工学科5年 藤田将喜

昨年の12月11日に、ブケ東海沼津にて「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008」が開催されました。県東部の大学や高専の学生が一堂に集まり、日頃の研究成果をまとめたポスターを用いて発表しました。

私は実験流体の研究室に所属しており、流体の温度と速度を同時計測できる高性能な計測器に関する研究を行ってきました。このような計測器は、例えば空調機器や熱流体機器等の性能を評価する際などに非常に有用です。そして今回、同じ研究室に所属する角田君とともに「抵抗線温度計の周波数補償系の確立」という題目で発表を行い、機関別（沼津高専）で最優秀賞を獲得することができました。このような荣誉ある賞を頂くことができたのは、先生や先輩方と議論を重ねながら計測器の性能面での改良に取り組んできた成果だけではなく、我々の研究の意義が、発表を通じて会場を訪れた方々に認められたからであると思います。

専攻科での研究を経て

機械・電気システム工学専攻2年
今井俊太

「何を糧に生きていくのか?」。専攻科に入学する当時の私はそんな疑問を自分に投げかけて、答えを出すことに躍起になっていたように思います。沼津高専に入学するときに描いていた夢と、現実の実力とのギャップに悩むことが多くありました。

本科5年間で工学の基礎を学びながらも、その内の何パーセントが自分の力になっているのかわからず、将来に焦りを感じていたことは確かだったと思います。しかし2年間専攻科で研究や勉強をするうちに、自分の進みたい道、新たにやりたいことが見えるようになりました。特に研究を通して得た知識や経験は今後の自分の人生の

完全に内容を忘れてしまい沈黙を作ってしまった。なんとか終わることが出来たが、結果は散々だった。残念だったけど悔いは残らなかった。レベルの高い人と肩を並べ、自分の言いたいことが言えたのだから。

これだから英語のスピーチコンテストはやめられないのだ。

当日は様々な専門分野の方が発表を聴きに訪れていたため、私は専門的な用語をできる限り避け、工学に広く共通する用語を用いて丁寧に説明することを心掛けました。また、自らの主張をより明確に伝えるために、論理展開を工夫し順序立てて説明するように留意しました。私は発表を通じて、自分と専門分野の異なる方と議論することの新鮮さと楽しさを味わうことができましたが、同時に、研究内容に関する予備知識のない相手に対して、自分たちの主張を的確に伝えることの難しさも実感しました。今回得た貴重な経験は、これまでの研究のプロセスや自分の在り方を振り返り、今後の方針を立て直すという点において非常に有意義であると感じています。なぜならば、学外の方と交流できるこのような機会は、我々の研究が持つ意義や、目的としていること、問題に対するアプローチ方法などを客観的に評価するにあたって最適であると考えからです。

他大学工学部の学生、環境科学を研究する教授、計測器メーカーの方など様々な方に対して発表を行い、議論を交わしたことで、我々の研究の意義や主張が認められたことは、今後の私にとって大きな自信となることと思います。今回の受賞を励みに、決して現状に満足することなく、今後も研究に専念していきたいです。このような素晴らしい機会を提供して下さった多くの方々に感謝を申し上げます。

大きな目標となったのではないかと思います。

私は電子制御工学科の遠山研究室で2年間、絶縁材料である低密度ポリエチレンの交流高電界下での電荷挙動に関する研究を行ってきました。遠山研究室は非常にアクティブな研究室で、多くの学会やシンポジウムに参加しています。夏の電気学会部門大会、秋の国際学会、春の電気学会全国大会と1年を通して忙しいことは確かなのですが、その一連の過程を通して得られた知識や経験は、学校で漠然と授業を受けるよりもずっと多くの物を自分の中に刻みつけたように感じます。特に専攻科生という身の上でありながら国際学会に参加できるというのは遠山研究室の魅力の一つだと思います。私は1年生の時にバンクーバーで、2年生の時にケベックシティでCEIDPという国際学会に参加しました。オーラルではなくポスターでの発表でしたが、自分の研究したことを英語で説明したりすることは非常に有意義だったと思います。その他にも学会を通して、多くの先生や大学院生と

知り合うことができ、必要な知識を自分の中のため込むことができました。

私は来年度からは大学院に進学します。専攻科2年間

全国高校化学グランプリ 東海支部長賞受賞

物質工学科3年 工藤 徹也

全国化学グランプリにおいて、東海支部長賞を受賞しました。

私が全国高校化学グランプリについて知ったのは、1年生のときでした。化学の先生から、化学グランプリの冊子が配られて、数問だけ解いてみたのがきっかけでした。初めてこのグランプリを知ったときに感じたことは、全国の高校生が参加する中で、沼津高専の物質工学科で参加することはとても有利だということです。化学グランプリでは、普通高校では教わらないような問題が出題されます。問題をよく読めば理解できるのですが、専門的な内容の問題が多いので正直難しいです。化学グランプリの勉強をする上では、化学系学科の高専生は普通科の高校生と比べて、非常に有利になるでしょう。そんなことを考えて、参加費無料の上、記念の電卓までもらえることを知ったので、つい参加してしまいました。

化学グランプリは、全国の高校生が化学の実力を競う競技会としてスタートし、その後、国際化学オリンピックへ派遣する代表生徒の選考も兼ねるようになりました。1次選考を突破した高校生は、2次選考会で実験問題を競い、その中から上位20名程度が「代表候補」として認定されます。大学の先生の個別指導やレクチャーを受け、最終選考により、日本代表4名が決定します。日本代表は、国際化学オリンピックに参加します。国際化学オリ

の研究を経て得た知識や経験、目標をよりはっきりとした物に形作り、将来の糧としていきたいと思います。

ンピックは毎年世界のどこかで開催されます。期間は、7月の10日間です。世界約70カ国から280名の高校生が参加し、化学実験試験などを行います。

実際に参加して、今の自分よりも化学ができる高校生がたくさんいることに驚きました。試験会場では周りにはいる受験生のほとんどが清水東高校の生徒で、みんな制服を着ていました。自分ひとりだけが私服で受験しているような感じで、場違いな気がしました。しかし、高校生らしい気分を楽しむことができ、クラスの中では決して化学が得意ではない私ですが、それなりの結果を出せてよかったです。

もし、2次選考や代表候補まで進むことができていたら、今学校で習っていることよりもっと高度なことを学ぶ機会になったと思います。自分のレベルが、日本でどれくらいなのかを知ることができ、化学グランプリへの参加は自分にとって意味のあることだったと思いました。



着 任 挨 拶



牧場の馬になりますか？

制御情報工学科
相 良 誠

昨年9月、35年間勤めた機械メーカーから着任しました。会社時代は工作機械の設計、開発、機械のトラブルの解決などを手掛けてきました。長い間の技術者生活は本当に楽しかったと思います。もちろん、いつ果てるとも知れぬ故障の原因解明や日程遅れを取り戻すための徹夜など心身の疲れることもありました。しかし、どんな

場合でも「技術的に前進していく」という充実感を楽しんできました。

そのような楽しい技術者生活は与えられたという一面もありますが、自分でも「楽しむ」ために努力してきました。学生時代、先生から言われた「技術者はT型人間であるべし」を心がけたことです。自分の専門領域についてはTの字の縦棒のように深く掘り下げ、周辺についてはTの横棒のように広い分野で専門家と会話ができる力を持つべきだという教えです。具体的には「この仕事では、軸受けの設計手順書を作ってみよう」「保守説明書をまとめる間にラダーシーケンスを読めるようになろう」などと仕事を通じて縦横の棒を伸ばす目標を定めて取り組みました。会社に入って多くの魅力的な先輩に出会い

この意を強くしました。彼らは技術の分野でT型であるばかりでなく、技術を縦棒として横棒には政治、経済、文学等、実に多くの分野にわたる教養を持った二重のT型人間でした。

最近は「知識より創造性が大切だ」と言われることが多いようですが、創造性を伸ばすためにも横の広がりを心がけることが必須であると感じています。創造性は若さゆえの荒唐無稽な奇抜さとは異なり、蓄積された知識に裏づけされた技術力によって獲得されるものと感じています。専門領域の技術だけでは乗り越えられない障害にぶつかったとき、他分野の知識や事例からヒントを得てブレイクスルーすることが創造性だと思います。

ですから創造性豊かな技術者になるために、学生時代に心がけるべきことはTの横棒をできるだけ広げることだと思います。縦棒は職業に就いてから必要に迫られていやでも掘り下げることになります。それまでは、いつでもどこからでも縦棒を掘ることができる広い土台を作

るべきだと思います。

「自分は将来こういう分野に進むのだからこれだけ勉強すればよい」などというのは、近視眼的かつ危険な人生設計です。環境の変化や会社・研究機関の経営方針の変化によって、自分の意思ではどうにもできない分野変更がある時代です。運よく希望通りの仕事につくことができたとしても、その仕事にははっきりした境界など無いのが現実です。周辺分野をどれだけ守備範囲にしているかで技術者の価値が決まってしまう。仔馬の頃に「この柵は越えられない」と学習した馬は、成長しても「柵の外は別世界」と信じているのか低い柵を飛び越えようとしません。このような「牧場の馬」では社内外から相手にされなくなります。なにより大切なことは、周辺まで見渡せることによって、今までより一段高く独創的な仕事を楽しめるようになることです。

若い皆さんが楽しさあふれる広大な技術の原野に出たいけるよう一緒に勉強していきたいと思っています。



着任のご挨拶

事務部長
奥野芳明

平成20年10月16日付けで、本校事務部長を拝命いたしました奥野芳明です。高専での勤務経験は、「富山高専」「富山商船高専」「明石高専」に継いで本校が4校目となりますが、ここ6年半の間は前職の一橋大学をはじめ大学勤務でした。久々の高専勤務で独法化の組織体制に少々戸惑いを感じましたが、皆様からのご指導の下、無事スタートすることが出来ました。今後ともよろしく願いいたします。

昨年末、着任早々タイミング良く「高等専門学校教育の充実について—ものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指して—」と題して、中央教育審

議会答申が発表されました。

この内容には、今後本校が積極的に取り組まなければならない多くの課題が提言されています。その中において「多様な学生への支援」や「教育基盤の強化」については、全校教職員が一丸となってアイデアを出し合い、早急に対応していかなければならないと思っています。

「ものづくり—実践的・創造的技術者として—」の夢を抱き入学してくる学生の皆さんが、生き生きとしたキャンパスライフを日々送れるように、保護者の方々や卒業生の方々等も含め多方面からの意見をよく聞き、緊急性、優先性を考慮しながらその方策を考え、環境を整え、その夢が叶えられるよう、学生支援の充実に力を尽くしたいと考えています。

高専の取り巻く現状には課題が山積していますが、毎日学生の皆さんと交わす元気な挨拶の声に答えるよう「学生のために」を常に問いかけながら、創意工夫し目標達成に向けて頑張ります。

退職教職員から



定年を迎えて

電気電子工学科
加藤繁

本校に40年間勤めその間昭和63年4月から平成4年3月を電子制御工学科に所属しましたが大半は電気・電子工学科に所属していました。赴任当時は私自身がアマチュ

ア無線の免許を持っていることもあり無線部の顧問をしばらく務めていましたが、性能のよい送信機や受信機が安く手に入るように成り、自作をして楽しむ学生も減り無線部は廃部となりました。現在、「物造り物造り」と言われていますが30年も前にその兆候が在ったように思います。また、当時は部品等も限られたものを使用して製作を楽しんだのが、今は有り余る素材を与えられて無理やり物造りの勉強をさせられている感があります。社会もアナログから徐々にデジタルに移行して、私も市販化され始めたマイクロプロセッサ8080を使用した回路の製

作を楽しみ、学生にその原理等を教えました。なお、アマチュア無線の仲間とマイクロコンピュータクラブを作り、会社等にマイクロコンピュータの講習会の講師をし、普及に努力をしてきました。計算機に関しては、国際協力事業団（JICA）の下にインドネシアのポリテクニク校の立ち上げにコンピュータの専門化として参加したのが最も大きな事柄です。ポリテクニク校はロボットコンテストの大学部門でこの数年常にベスト4に入る成績を収めています。長い間この学校でロボコンの指導をしてきた教官アナンは沼津高専で1年間研修をしています。平成20年10月にポリテクニク校の20周年記念に呼ばれ、記念植樹の式に参加してきました。ポリテクニク校が非常に発展しているのを目の当たりにしました。これからの沼津高専もこのような発展をすることを希望しています。



30年間の感謝

電子制御工学科

森 井 宜 治

30年前には無かったもの。カーナビ、パソコン、携帯電話。

30年前にはあったが今は無いもの。ソ連、国鉄、電電公社。

今もあるもの。沼津高専、機械工学科、学生寮。

30年前の沼津高専は機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科4クラスの高専でした。機械工学科は規模半減し、電気工学科は電気電子工学科へ、工業化学は物質工学科へと変わりました。電子制御工学科と制御情報工学科は新しくできた学科です。

学生寮では女子寮ができ、建物も拡充・改修されまし

授業は1年生の直流回路を長い間受け持っていました。1年生に回路理論の基礎である直流回路を教えながら、1年生がこの科目を如何に学ぶかの心構えを持っているかを見てきました。クラスの雰囲気は短時間で掴めるようになってからは、学科会議等で“今年の1年生は…”とぼやきながらも、その彼らが5年を終了する時のたくましい姿を見、社会に送り出してきました。今年は私が学校から送り出される番が来ました。私が高専の教室で教えることはこれで終わりかもしれませんが、どこかで高専で得られたノウハウを生かせる道が在ると思っています。

最後になりますが、長い間いろいろお世話になりました教職員の皆様、クラス担任時に私の独断と偏見を受け入れてくださったご父兄と学生諸君に感謝の意を表したいと思います。

たがその存在感は変わっていません。

30年の月日を経て、効率・能率を追求する合理化の波にソ連も国鉄も電電公社も飲み込まれていったのだと思います。カーナビもパソコンも携帯電話も効率・能率を追求する合理化のツールとして登場したものです。

30年前の沼津高専は効率・能率とも合理化とも縁の薄い世界だったような気がします。今、時代の大波とは無関係・無関心ではおれませんが、まじめで、繊細で、ひたむきな情熱をもった学生さん達の世界であることは今も変わりません。おそらくは高専が5年間という青春を丸ごと抱え込んだ学園生活の場になっているからだと思います。人生で何かが刻印される時期があるとすれば、この5年間なのではないのだろうか、と思ったりしています。共に学んだ30年間に、学生さん達の大切な5年間を支援し、応援することができたとしたら、こんなに嬉しいことはありません。30年間の沼津高専に感謝します。ありがとうございました。



定年退職を迎えて

技術室技術長

村 越 文 夫

昭和42年4月、本校に採用され機械工学科に配属されました。その頃は明治生まれの先生方も居られその元気のよさに圧倒され、まさに明治の人は力強いを実感していた日々でした。

採用されてから数年間、岸岡先生や黒下先生に指導していただき、油圧の回路設計から配管まで一通りできるまでになりました。その後、所属は大橋先生に変わり、研究室で実験装置の設計や加工を行うとともに、データ

の取り方や整理方法などを学んでいました。そして、大橋先生が本校1期生のHKS社長より新種のデファレンシャルギヤの性能試験を依頼されたことがあります。基本的な構想は、動力として1500ccの自動車用エンジン、左右の車軸にかける負荷は油圧ポンプを使いその圧力調整で行うことになりました。自動車用デファレンシャルギヤなので実験装置も大きくなりましたが、卒研生とともに設計から加工まで全て手作りで行っていました。その当時は、今と違い週休2日制ではなく土曜日は半ドンで午後なども卒研生が自主的に残り実習工場などで加工を行ったこと、夏場ではエンジン出力が30馬力を超えるとその放熱でかなり過酷な実験となったことなど。これらの思い出を含め、実験その他に協力してくれた卒研生に感謝します。

大橋先生の定年退職とともに大賀先生の塑性加工実験

室に移り、この頃より物作りの本当の楽しさを知ることになります。大賀先生の専門は冷間鍛造でしたが塑性加工に関しては何の知識もないため、最初は戸惑いましたが、成形工程や型工具の一部を少し改良（工夫）すると製品成形には大きな効果を与えることが解り驚きの連続でした。また、素人ゆえの柔軟な発想という利点も自信につながりましたから、型工具の設計から組立までの作業中にまた新しい考えが出てくる感じでした。そして数年過ぎた頃、成形工程や型工具の工夫も限界となり「それなりにレベルが上がれば、そう簡単にはアイデアはでてこない」と慰められたことも良い教訓でした。大賀先生に勧められて入会した日本塑性加工学会では、大賀先生の研究は少し発想の仕方が違うと評判になったようですが、これに少しは寄与したのではと思っています。研

究発表に同行し、先生の恩師や友人の方との会食に同席させていただいたこと、発表で使用した加工行程図があるメーカーが開発したプレス機の付加機能の参考図になったことなども良い思い出です。

最近、ゴルフのプレイ中に同伴者（もちろん、私より年配者）より定年後の心得を懇切丁寧に教わりました。そして最後の一言、「毎日欠かさず3度の食事を採るのは現役の話、仕事をしない定年後は1日2食で十分」とお医者さんに言われたそうです。定年とはこれが現実とは思いますが、食いしん坊な私には守れる自信は有りません。しかし、明治生まれの先生方のようにいつまでも元気でいるためには大事なことなのでしょう。

ご迷惑をおかけしたことも多々ありますが、本当に長い間ありがとうございました。

卒業生・修了生から

光陰、矢の如し

機械工学科5年 佐々木 俊 亮

中学校を卒業して5年、実に人生の4分の1もの時間をこの沼津高専で過ごした。去年の今頃は5年間という期間がとても長く感じていたのに、今振り返ると5年間というのはとても短かったように感じる。

1年で入学したときは地元浜松から遠く離れた沼津で暮らすことに不安を隠せなかった。そんな中、寮で共に暮らす相方たちや日々世話になった先輩方と絶えず刺激を求めバカなことをして過ごした。最下級生ということもあり、純粋に日々を楽しんでいたと思う。

2年生になると当然だが後輩というものができた。寮では本部企画として働き、特に夏祭りでは肝試しスタッフの長（キモ長）として少数ながらも人をまとめるということをした。今思えば、これが人生で初めての『人の上に立つ』という経験だったのかもしれない。

3年生では授業で本格的に専門科目が始まり、実習も総合実習としてより難易度の高いものとなる中、寮でも

清峰寮棟風紀という役職に就き人を注意し指導するという慣れない仕事に四苦八苦した。この時の仕事は今後のためにもなる良い経験だが、一方で後輩に怖がられるという副産物まで生んでしまった。

4年にもなると授業は一般科目より専門科目のほうが多くなり、なにより進路を考えなければならなくなったのが一番の変化だった。数回に亘る担任との面談や秋に行われた沼津高専の修学旅行と名高い工場見学旅行で訪問した企業での話をもとに、就職という道を選んだ。またこの年には1年次からの友人の誘いで学生会活動にも携わり、文集『礎』の編集を行ったのもよい経験になった。

そして今年、らしくもない学生会長としての仕事に疲れ果て、就職活動に奔走し、生涯最後となる数々の行事では多くの仲間とよい思い出を作ることが出来た。意外にもこの1年が一番多くのことを学んだ1年だったかもしれない。

果てしなく感じた5年間は過ぎてみるととても短く、辛く大変だった多くのことは振り返ればいい思い出となり、今では「もう1年くらい高専にいてもいいかな」という気になりそうなくらいだ。

僕の高専5年間

電気電子工学科5年 海老名 良 祐

僕が高専に入学してから今までを振り返ってみると、数え切れないほどの思い出がありますが、その中の3つを話したいと思います。

1つ目は、3年生のときの寮祭です。このとき、寮祭スタッフ3年目の僕は寮祭実行委員長をまかされました。

リーダーとなって仕切るのは、今回が初めて。やらなければならない仕事はたくさんあり、何を自分でやって、どれは部下にまかせていいのかもわからず、悪戦苦闘でした。そんなとき、やはり頼りになるのは前年度の実行委員長でした。彼から仕事のこなし方はもちろん、上の役職の楽しみ方を学びました。また副実行委員長のふたりにもとても助けられました。頼んだ仕事はばっちりこなし、頼まなくても進んで仕事をこなしてくれる二人は本当に頼りになる仲間でした。すべての長、すべてのスタッフ、すべての寮生のおかげで寮祭はすばらしいもの

にすることができました。

2つ目は、4年生のとき寮生会で担当した企画長です。寮を運営する本部メンバーの一員である企画長は僕を大きく成長させてくれたと思います。企画長としての仕事のメインである寮の行事の運営はもちろん、本部メンバーとして、岩手県の一関高専と行った交換寮生もとてもよい経験でした。自分たちの寮生活とはまったく異なる寮生活を経験し、いい刺激を受け、寮生活をよりよいものにするために有意義な情報交換ができました。僕の高専最後の寮生活はとても中身の濃い1年となりました。

最後の経験は、5年間のテスト週間です。正直、中学時代はあまり勉強をするほうじゃありませんでした。しかし、高専に入ったらテストのレベルは高いし、思うように点が取れない教科もありました。そんなときに助かっ

たのが、寮生活です。わからない問題が出たときはもちろん、勉強をやる気が起きないときはよく友人の部屋を訪ねました。周りの勉強モードは自然と自分を焦らせ、勉強のやる気を引き起こしてくれました。中学時代、勉強は一人でやるものだと思っていた僕にはとても大きな発見でした。たぶん、1年生のときの寮生活がなかったら、僕は今の成績をとることは出来なかったと思います。寮を出た今でも、テストが近づくと、友人と勉強会を開きます。

これらすべてのことに共通して言えることは、どの経験も友人がいて、初めて成り立つということです。僕が高専5年間で得たもっとも大きなことは多くの良き友人と出会えたことです。

5年間を振り返って

電子制御工学科5年 伊藤勝隆

卒業が近くなり、自分の沼津高専での5年間を振り返ってみると充実した思い出で溢れています。考えてみると、この5年間で自分が得たものは学校の授業の中よりも、過ごしてきた日々の生活の中に数多くあった気がします。

特に寮生活では、友達や先輩・後輩と同じ時間、空間を共有することで非常に充実した日々を送れました。勉強で分からない所を、友達同士で真剣に議論しながら学ぶ習慣や、仲間と豊かに過ごす為に必要な挨拶をする習慣は、寮生活を通してでなければ得られないものです。またこのような生活の中で、先輩との接し方や後輩への指導の仕方を身に付け、大きく成長できました。

そして、毎日取り組んでいた部活動では、大切な仲間を作ると共に、自分の立てた目標を達成させることがで

きました。日々の練習をより充実させるために部員全員で話し合い、時には喧嘩になったり、満足のいく結論に達しなかったりすることもありましたが、いつも本音で語り合えた事が部員同士の団結力を強めることに繋がりました。そして仲間のサポートのお陰で、全国高専大会テニスの部で優勝できた事はこれからの僕の人生において非常に大きな意味を持つと思います。

5年生での卒業研究では、研究を通して人生における大切な事を指導教員の大庭先生から多く学びました。人への物の頼み方を始め、仲間への情報伝達の仕方や、任された仕事への責任、そして自分の行いに対するこだわりなど、物事を追求することだけでなく社会に出てから必要な様々な事を日々教えてもらいました。

このような経験により身に付けた多くの姿勢や考え方は、これからの私の人生の支えとなる太い柱になっていくと思います。5年間を振り返ってみて、自分が如何に人や環境に恵まれていたかに気付きました。今まで支えて下さった友達、両親、先生方に心から感謝したいです。

専攻科修了にあたって

機械・電気システム工学専攻2年

栗田哲也

高専入学から7年になります。専攻科入学当初は、本科5年で卒業した同級生らと比べ変化のない環境つまらなさを感じていました。卒業した友人に連絡をとると、生活環境の変化による様々な話を聞かされ、自分の進路決定が正しかったのかと思う時期もありました。

しかし、専攻科修了にあたり今では、自分のために使える時間が豊富にあった専攻科での生活に非常に満足しています。専攻科は本科とは違い、何を学ぶか、何をするか、全て自分で考えなければなりません。しっかりと計画を立て学習していくことが必要となります。そして

研究に、勉強に、遊びに、と自由に時間を使うことができます。

研究では自分の担当教員の指導のもと、論文発表や学会発表、シンポジウムへの参加など積極的に活動を行うことができました。勉強面では、研究室で勉強会を行ったり、大学院受験に向けて勉強をしたり、少人数制の授業により各授業や実験・実習の理解度も高まりました。また、専攻科では本科の時と比べ課題が多いため、自然と実力がついたと思います。そしてそれ以外の時間を趣味に使うことができました。このように、この2年間は様々なことに挑戦し、とても充実した2年間であったといえます。自分のように本科のときに勉強をさぼるなど失敗してしまったと感じている学生にとっても、とてもよい環境であると思います。これも専攻科を支えてくださった教員・職員の方々のおかげだと感じています。教育環境の充実化やJABEE認定・学位授与など専攻科生に

とって有益な環境をつくっていただいたからだと思います。

専攻科という名前は高専について詳しい方でない限り、あまり知られていません。しかし、大学院の体験入学や、企業の就職説明会に参加して言われるのは「高専の人は優秀だからね」「専攻科生はできるからな」というような言葉です。

進学や就職活動をした専攻科生の誰もが経験したと思います。これは過去の卒業生のおかげでそのような評価

をいただいているのだと思います。来年度からは自分もその一人です。卒業生として恥ずかしくないよう活動していきたいです。また、専攻科卒というのは全国で見ても非常に少数です。他の人が経験していないものを経験しているからこそその強みを活かしていきたいと思います。

最後に、7年間の高専生活の中でお世話になった先生方、職員の方々、先輩方、同級生、後輩、家族、皆様に心から感謝申し上げます。

学生の研究活動 (2008. 5. 1 ~ 2009. 4. 30)

機械工学科 論文発表 (機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
ME 2	○津島 亮 三谷祐一朗	沼津工業高等専門学校研究報告第43号	製作性と活用性を考慮した小型磁気浮上装置の開発	三谷祐一朗

機械工学科 講演発表 (機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME 2	津島 亮	日本機械学会東海支部 第58期総会講演会	開発した工学教育用小型磁気浮上装置の性能評価	岐 阜 大 学	2009. 3. 17	三谷祐一朗
ME 2	津島 亮	日本機械学会東海学生会 第40回学生会卒業研究 発表講演会	材料・部品費が5千円を切る自動浮上機構付磁気浮上装置の開発	岐 阜 大 学	2009. 3. 16	三谷祐一朗
ME 1	大畑 成見	日本機械学会東海支部 第58期総会講演会	圧電素子を用いた薄板による周期性騒音の抑制手法の検討	岐 阜 大 学	2009. 3. 17	三谷祐一朗
ME 1	大畑 成見	日本機械学会東海学生会 第40回学生会卒業研究 発表講演会	圧電素子を用いた円板を透過する騒音抑制手法の検討	岐 阜 大 学	2009. 3. 16	三谷祐一朗
ME 1	望月 一輝	日本機械学会東海支部 第58期総会講演会	小型建機用エンジンユニットからの騒音の解析及び低騒音化の検討	岐 阜 大 学	2009. 3. 17	三谷祐一朗
ME 1	金子 亮太	第46回燃焼シンポジウム	MgB ₂ の燃焼合成における粉末粒径の影響 (新富雅仁、牧野 敦 (JAXA))	京 都 テ ル サ	2008.12. 5	新富雅仁
ME 2	清家 永太	日本機械学会 M&M2008材料力学 カンファレンス	昇温時のガスケットの漏洩特性測定と評価	立命館大学 びわこ・草津 キャンパス	2008. 9. 18	小林隆志
ME 2	山田 暁史	日本機械学会 M&M2008材料力学 カンファレンス	フランジ継手の密封性能に与える座面タイプの影響	立命館大学 びわこ・草津 キャンパス	2008. 9. 18	小林隆志
ME 1	増井 貴一	日本機械学会山梨講演会	フランジ継手の密封性能に与えるガスケット種類と締付け条件の影響	山 梨 大 学 工 学 部	2008.10.25	小林隆志
ME 2	清家 永太	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	高温におけるガスケットの密封性能調査	アンジェ・ ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	小林隆志
ME 2	山田 暁史	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	ガスケット付フランジ締結体の密封性能測定と影響因子の評価	アンジェ・ ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	小林隆志
ME 1	増井 貴一	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	フランジ継手用ガスケットの密封性能評価	アンジェ・ ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	小林隆志

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME1	金子 亮太	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	MgB2の燃焼合成に関する研究	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	新富雅仁
ME2	鈴木 景祐	日本機械学会東海学生会 第40回学生会卒業研究発表講演会	フレット疲労特性に及ぼす固体潤滑被膜の影響	岐阜大学	2009.3.16	西田友久
ME2	鈴木 景祐	第6回全国高専テクノフォーラム	アルミニウム合金のフレット疲労強度に及ぼす表面処理の影響 (西田、水谷、武藤、今岡、川邑と共著)	クレイトンベイホテル	2009.8.21	西田友久

電気電子工学科 論文発表 (機械電気システム工学専攻の電気コース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
ME5	○武田好央 高野明夫	沼津工業高等専門学校研究報告、43、pp.79-84	ベクトル周波数調整法による2相交流モーターの可変速駆動	高野明夫

電気電子工学科 講演発表 (機械電気システム工学専攻の電気コース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME2	赤堀 隼祐	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	ルビウム添加光ファイバ増幅器の飽和特性	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	佐藤 憲史
ME2	稲葉 亮介	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	EMC測定のためのレクテナに関する基礎研究	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	嶋 直 樹
ME2	北澤 拓也	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	平均場近似と厳密対角化法によるマンガ酸化物の磁気相図	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	大澤 友克
ME2	勝 呂 大	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	圧電素子を用いた電界検出装置に関する研究	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	嶋 直 樹
ME2	武田 好央	電気学会東京支部沼津・山梨支所研究発表会	ベクトル周波数調整法による2相リラクタンスモーターの可変速駆動	東芝キャリア(株)	2008.11.20	高野明夫
ME2	武田 好央	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	ベクトル周波数調整法による二相リラクタンスモーターの可変速駆動	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	高野明夫
ME1	新井 雅哉	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	電気主任技術者試験学習支援アプリケーションの開発	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	眞鍋保彦
ME1	池ヶ谷智洋	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	揮発性有機化合物検知のための触媒燃焼式センサ駆動回路開発	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	望月孔二
ME1	片桐 瑞穂	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	デジタルカメラの高精度な色変換アプリケーションの開発	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	高矢昌紀
E5 E5	松田 倫明 加藤 知也	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	DVDカメラを用いた高電圧現象の解析	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	江間 敏
E5	田中 貴之	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	EMTPを用いた電力システムのサージ解析	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	江間 敏
E5	アイナトゥルハキム ビンティザイニ	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	RFマグネトロンスパッタ法によるZnO薄膜形成	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	野毛 悟
E5	池田 考志	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア2008	薄膜作製用Ptベースヒータの試作	アンジェ・ヴィラージュ ブケ 東海	2008.12.11	野毛 悟

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
E 5	望月 翔太	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	石英ガラス薄膜の圧電効果に関する検討	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	野毛 悟
E 5	中川 恭平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	石英ガラス薄膜の可視発光に対する複数元素のドーピング効果	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	野毛 悟
E 5	宮田 優也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	ON-LINE 鉄粉濃度センサとその評価	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	望月 孔二
E 5	岡島 直輝	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	プリンタと熱転写銅箔リボンによる実験用フィルム基板の作成	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	嶋 直樹

電子制御工学科 論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論 文 題 名	指導教員	備 考
D S 2	○藤田彩乃 (単著)	電気学会論文誌A、Volume 128-A Number 10、P.653 (2008)	Stay in NRC Canada	遠山和之	
D S 2	○藤田彩乃 (沼津高専) S.S. BAMJI A. BULINSKI M. ABOU-DAKKA (カナダ国立研究所)	日本高専学会誌 「第3回論文特集号」 (2009年6月掲載予定)	交流電界下の位相分解PEA手法によるXLPEの空間電荷分布測定	遠山和之	「2007年度日本高専学会論文奨励賞(第3回)受賞」

電子制御工学科 講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員	備 考
D S 2	鈴木 宏和	日本機械学会東海学生会 第40回学生会卒業 研究発表講演会	遷移過程における内部重力波の空間構造に関する実験的研究	岐 阜 大 学	2009.3.16	大庭勝久	
D S 2	鈴木 宏和	平成20年度東海地区4高専SCS広域シンポジウム	温度成層流中に発達する内部重力波に関する実験的研究	沼 津 高 専	2009.2.10	大庭勝久	
D S 2	鈴木 宏和	日本流体力学学会年会2008	内部重力波の遷移過程における熱輸送と乱流生成	神戸大学六甲台キャンパス	2008.9.7	大庭勝久	
D S 1	杉山 清隆	第6回日本流体力学学会中部支部講演会	内部重力波の空間構造の変化と熱輸送	名 古 屋 工 業 大 学	2008.11.8	大庭勝久	
D S 1	杉山 清隆	日本機械学会2008年度年次大会	内部重力波の遷移過程における空間構造の実験的解明(大高時尙)	横浜国立大学	2008.8.5	大庭勝久	
D S 1	遠山 勇樹	第14回高専シンポジウム in 高知	FPGAによる抵抗線温度計の周波数補償系のデジタル化	高 知 市 文化プラザかるぼーと	2009.1.24	大庭勝久	
D 5	伊藤 勝隆	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	FPGAを用いた自律知能ロボット用インターフェイス回路の開発	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	大庭勝久 牛丸真司	
D 5	小林 慶一	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	成層流中において浮力が作用することにより発達する波動現象の解明	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	大庭勝久	
D 5 D 5	角田 達哉 藤田 将喜	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	抵抗線温度計における周波数補償系の確立	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	大庭勝久	ベストポスター賞部門別(沼津高専)最優秀賞

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員	備 考
DS 2	酒井 佑 慎	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	HIV力学系における免疫応答モデルの分岐解析	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	江上 親 宏	
DS 2	曽根悠太郎	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	腫瘍に対する免疫応答と治療の数値モデル	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	江上 親 宏	
DS 1 D 5	遠藤友和 八木 竜	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	ケアプラン評価システムの構築：モデルと計算アプリケーション	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	江上 親 宏 内堀 晃彦	
ME 2	今井 俊 太	平成20年電気学会基礎・材料・共通部門大会	LDPE フィルムの電界発光と損失電流波形の時間依存性 (遠山和之、村上義信、長尾雅行と共著)	千葉工業大学	2008. 8. 21	遠山 和 之	
DS 1	長田 卓	平成20年電気学会基礎・材料・共通部門大会	水トリー劣化試験におけるLDPEシートの損失電流波形の振幅と位相の経時変化 (遠山和之(沼津高専)、今井友章、村田義直(株)ジェイ・パワーシステムズ)と共著)	千葉工業大学	2008. 8. 22	遠山 和 之	
DS 2	藤田 彩 乃	2008 International Symposium on Electrical Insulating Materials (2008ISEIM)	Charge Behavior Observation in LDPE/MgO Nanocomposite Material under AC High Field (K. Tohyama (Numazu National College of Technology), Y. Murakami, M. Nagao (Toyohashi University of Technology), M. Goshowaki, Y. Sekiguchi and Y. Murata (J-Power Systems Corp.)と共著)	四日市文化ホール	2008. 9. 8	遠山 和 之	
DS 1	長田 卓	2008 Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena	Dissipation Current Waveforms Monitoring Under Water Tree Deterioration Test of LDPE Sheet(K. Tohyama (Numazu National College of Technology), Tomoaki Imai, and Kazutoshi Abe (J-Power Systems)と共著)	Delta Hotel (カナダ・ケベック市)	2008.10.27	遠山 和 之	
ME 2	今井 俊 太	2008 Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena	Frequency Dependence of Electroluminescence and Dissipation Current Waveform in LDPE Film (K. Tohyama (Numazu National College of Technology), Y. Murakami and M. Nagao (Toyohashi University of Technology)と共著)	Delta Hotel (カナダ・ケベック市)	2008.10.29	遠山 和 之	IEEE DEIS 日本支部優秀学生論文発表賞授賞
DS 1	長田 卓	平成21年電気学会全国大会	水トリー劣化試験におけるLDPEシートの損失電流波形の経時変化(その2) (遠山和之(沼津高専)、今井友章、阿部和俊(株)ジェイ・パワーシステムズ)と共著)	北海道大学	2009. 3. 17 ~19	遠山 和 之	
D 5	小澤 拓	平成21年電気学会全国大会	低密度ポリエチレンフィルムの交流高電界下での電界発光現象とCCD画像処理法の検討 (遠山和之(沼津高専)、村上義信、長尾雅行(豊橋技術科学大学)と共著)	北海道大学	2009. 3. 17 ~19	遠山 和 之	
DS 2	天野 雄 太	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	交通信号制御シミュレーションプログラムの開発に関する研究	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	鄭 萬 溶	

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員	備 考
ME2	栗田 哲也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	ウェーブレット解析と線形予測法を用いた音声の個人成分抽出に関する研究	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	鄭 萬 溶	ベストポスター賞 優秀賞
ME1	柳元 健	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	防振台に組み込むチューンドダンパーの開発に関する研究	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	鄭 萬 溶	
D5 D5 D5	杉山博軌 吉川雄大 加賀美祐	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	1ボードPCへの画像処理環境の実装と画像認識	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	牛丸真司 川上誠 鄭 萬 溶	
DS2	天野雄太	日本機械学会東海学生会 第40回卒業研究発表講演会	交通信号制御シミュレーションプログラムの開発に関する研究	岐阜大 工学部	2009.3.16	鄭 萬 溶	
ME2	栗田 哲也	日本機械学会東海学生会 第40回卒業研究発表講演会	ウェーブレット解析と線形予測法を用いた音声の個人成分抽出に関する研究	岐阜大 工学部	2009.3.16	鄭 萬 溶	
ME1	柳元 健	日本機械学会東海学生会第40回卒業研究発表講演会	防振台に組み込むチューンドダンパーの開発に関する研究	岐阜大 工学部	2009.3.16	鄭 萬 溶	
ME1	梅原直也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	札幌-沼津間流星バースト通信路の観測	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	長澤正氏	
DS1	善養寺 薫	第14回高専シンポジウム in 高知	高専を拠点とした流星バースト通信路観測網の構築	高知市文化プラザかるぼーと	2008.1.24	長澤正氏	
DS1	善養寺 薫	電子情報通信学会	国内における流星バースト通信路観測システムの概要	愛媛大学	2008.3.20	長澤正氏	
DS1 DS1 D5	山口雅士 岡本成晃 石川貴英	日本機械学会 第18回設計工学・システム部門講演会	サッカーロボットの学習システム	京大会館	2008.9.25	川上誠 澤洋一郎	
DS1 DS1	山口雅士 岡本成晃	人工知能学会	サッカーロボットのProfit Sharingによる学習	キラメッセ津沼	2008.5.2	川上誠 澤洋一郎	
DS1 DS1 D5	山口雅士 岡本成晃 石川貴英	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	Lego Mindstorms NXTを用いたサッカーロボットシステムの開発	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	川上誠 澤洋一郎	
DS2 D5	高橋安曇 鈴木伊織	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	電動いすの開発	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	澤洋一郎	
ME2 D5	佐々木智樹 熊澤大介	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	SOHO用ワゴンロボットシステムの開発	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	澤洋一郎	
D5	内田洋平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	RoboCup Simulation Leagueにおける自己組織化マップによる状況分類に関する研究	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	内堀晃彦	
D5	片瀬優介	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	小型自律移動ロボット用モータ制御ボードの開発	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	内堀晃彦	

制御情報工学科 論文発表(制御情報工学科及び制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指 導 教 員
DS2	○藤尾三紀夫 鈴木 裕	Proc. Of The 3rd International Conference on Positioning Technology 2008	Development of Hi-speed and Hi-accuracy Machining System based on Servo Data Control - Constituion and Evaluation of Prototype System -	藤尾三紀夫
DS2	○村松稔文 藤尾三紀夫	沼津工業高等専門学校研究報告第43号(2009)	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発-形状補間と運動誤差補正の適用-	藤尾三紀夫

制御情報工学科 講演発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員	備 考
DS1	平野 卓哉	富士山麗アカデミック&サイエンスフェア2008	プラネタリーギヤ型水圧モータのトルク特性	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	大島 茂	
DS2	村松 稔文	平成19年度高専連携教育研究プロジェクト学生成果報告会	工作機械の高精度制御に関する研究-サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発-(藤尾三紀夫、内山直樹、田中淑晴)	豊橋技術科学大	2008.4.28	藤尾三紀夫	学長賞受賞
DS1	宮代 佳奈	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2008	NC加工シミュレーションに基づく工具経路生成に関する研究(藤尾三紀夫、村松稔文)	長野 ビックハット	2008.6.6	藤尾三紀夫	
DS2	村松 稔文	平成20年度高専-長岡技科大(機械系)教員交流研究集会「研究情報交換会」	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発(藤尾三紀夫)	長岡技術科学大	2008.7.27	藤尾三紀夫	
DS2	村松 稔文	2008年度精密工学会秋季大会学術講演会	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発-NURBS補間との比較検証-(藤尾三紀夫、宮代佳奈、鈴木裕)	東 北 大 学	2008.9.17	藤尾三紀夫	
DS1	宮代 佳奈	2008年度精密工学会秋季大会学術講演会	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工制御システムの構築-基本システムの検証-(藤尾三紀夫、村松稔文、植松邦成)	東 北 大 学	2008.9.17	藤尾三紀夫	
DS2	村松 稔文	The 3rd International Conference on Positioning Technology 2008	Development of Hi-speed and Hi-accuracy Machining System based on Servo Data Control - Constitution and Evaluation of Prototype System -(藤尾三紀夫、鈴木裕)	浜 松 アクトシティ	2008.11.27	藤尾三紀夫	
DS1	宮代 佳奈	富士山麗アカデミック&サイエンスフェア2008	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工制御システムの構築(藤尾三紀夫)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	藤尾三紀夫	
DS2	村松 稔文	富士山麗アカデミック&サイエンスフェア2008	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発(藤尾三紀夫、植松邦成)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	藤尾三紀夫	
S5	植松 邦成	富士山麗アカデミック&サイエンスフェア2008	NC加工シミュレーションの高機能化に関する研究(藤尾三紀夫)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	藤尾三紀夫	
S5	植松 邦成	精密工学会第16回学生会員卒業研究発表講演会	NC加工シミュレータの高機能化に関する研究-たわみ方向の予測-(藤尾三紀夫)	中 央 大 学 後 楽 園 キャンパス	2009.3.11	藤尾三紀夫	
DS2	村松 稔文	2009年度精密工学会春季大会学術講演会	サーボデータ制御に基づく高速高精度加工システムの開発-試作システムの検証-(藤尾三紀夫、宮代佳奈、鈴木裕)	中 央 大 学 後 楽 園 キャンパス	2009.3.13	藤尾三紀夫	
DS1	宮代 佳奈	2009年度精密工学会春季大会学術講演会	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工制御システムの構築-工具のたわみ変形への対応-(藤尾三紀夫、村松稔文、植松邦成)	中 央 大 学 後 楽 園 キャンパス	2009.3.13	藤尾三紀夫	

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員	備 考
DS1	青木 応 泰	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	耐ネットワーク障害性に優れた分散データベースシステムの開発 -エラーメール処理システムの構築- (鈴木茂樹)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	鈴木茂樹	
DS1	小田 裕 也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	頭蓋内圧脈計測診断システムの開発 (鈴木茂樹)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	鈴木茂樹	
DS1	安本 勝 耶	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2008	近接場エリプソメトリーの開発-光学系の開発- (大久保進也)	長野市若里多目的スポーツアリーナ	2008.6.7	大久保進也	
DS1	安本 勝 耶	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	近接場エリプソメトリーの開発 (大久保進也)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	大久保進也	
S5	富永 亮	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	大脳皮質視覚野における両眼視差選択性細胞の自己組織化に関する研究(渡部要、田中繁(理研)、宮下真信)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	宮下真信	

物質工学科 論文発表(応用物質工学専攻含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名(共著者) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論 文 題 名	指 導 教 員
CB2	○大橋 平 渡辺 敦雄	沼津工業高等専門学校研究報告第43号,in print (2009)	認知的不協和理論に基づく環境行動に関する基礎的研究	渡辺 敦雄

物質工学科 講演発表(応用物質工学専攻含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員	備 考
CE2	宮内 佑 子	第61回日本酸化ストレス学会学術集会	マウスのIV型アレルギーモデルに対するブナシメジ(Hypsizygyus marmoreus)エタノール抽出物の抑制作用(芳野恭士、佐野満昭)	東京工科大学	2008.6.20	芳野恭士	
CB2	宮内 佑 子	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	茶カテキンの抗酸化作用に関する研究(芳野恭士)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	芳野恭士	
CB2	成島 優	日本文化財科学会第25回大会	蛍光X線分析による産地推定における遺跡からの遠隔産地、不明産地の黒曜石について(望月明彦)	鹿児島国際大学	2008.6.14-15	望月明彦	
CB2	梧桐 翔 大	日本文化財科学会第25回大会	新潟県小千谷市真人原遺跡出土黒曜石の産地推定(望月明彦)	鹿児島国際大学	2008.6.14-15	望月明彦	
CB2	大橋 平	第19回廃棄物学会研究発表会	レジ袋有料化に関する予備的調査(大橋平、渡辺敦雄)	京 都 大 学	2008.11.19	渡辺敦雄	
CB2	大橋 平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	レジ袋の有料化に関する意識調査研究	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	渡辺敦雄	
CB2	大橋 平	第14回高専シンポジウム in 高知	レジ袋有料化に関する意識調査研究(大橋平、渡辺敦雄)	高 知 市 文化プラザ かるぼーと	2009.1.24	渡辺敦雄	
CB2	小野 眞 紀	第39回中部科学関係学協会支部連合秋季大会	$Sr_xLa_{1-x}Mn_{1-x}Ti_xO_3$ の結晶構造の検討(小林美学)	名古屋大学	2008.11.9	小林美学	
CB2	小野 眞 紀	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2008	$Sr_xLa_{1-x}Mn_{1-x}Ti_xO_3$ の合成と結晶構造(小林美学)	アンジェ・ヴィラージュブケ 東海	2008.12.11	小林美学	

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名(共同研究者名)	会 場	表 日	指導教員	備 考
C B 2	天野ちひろ	第69回分析化学討論会	ハイシリカゼオライト担持Pd触媒を用いた触媒燃焼式マイクロガスセンサの特性評価(佐久本尚武、砂山竜男、馬場俊秀、稲津晃司、蓮実文彦、竹口昌之)	名古屋国際会議場	2008.5.16	竹口昌之	
C B 2	天野ちひろ	富士山麗アカデミック&サイエンスフェア2008	ハイシリカゼオライト担持Pd触媒を用いた触媒燃焼式マイクロガスセンサの特性評価(佐久本尚武、砂山竜男、馬場俊秀、稲津晃司、蓮実文彦、竹口昌之)	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	竹口昌之	ベストポスター賞 優秀賞
C B 2	天野ちひろ	第14回高専シンポジウムin高知	触媒燃焼式マイクロガスセンサによるガスの識別方法の検討(杉山洋貴、佐久本尚武、砂山竜男、蓮実文彦、竹口昌之)	高知市文化プラザかるぼーと	2009.1.24	竹口昌之	
C 5	落合真希	富士山麗アカデミック&サイエンスフェア2008	チャ(Camellia sinensis)の苗条原基誘導(古川一実)	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	古川一実	優秀賞受賞
C 5	伊藤 優	富士山麗アカデミック&サイエンスフェア2008	製菓工場由来デンプン系産業廃棄物の資源化に関する研究	アンジェ・ヴィラージュブケ東海	2008.12.11	蓮実文彦	

平成20年度卒業生・修了生予定者進路先一覧

機械工学科

44名

就職先企業

32名

株式会社アイエイアイ	1
いすゞエンジニアリング株式会社	1
株式会社エッチ・ケー・エス	1
NOK株式会社	1
NTN株式会社	1
エンケイ株式会社	1
オークマ株式会社	1
株式会社オーハマ	1
川崎重工業株式会社	1
独立行政法人国立印刷局	1
株式会社小松製作所	1
ジャトコ株式会社	1
株式会社JAL航空機整備成田	1
新日本石油精製株式会社	1
スズキ株式会社	1
ソニーイーエムシーエス株式会社 木更津テック	1
株式会社電業社機械製作所	1
東芝機械株式会社	1
東芝機械マシナリー株式会社	1
トヨタL&F静岡株式会社	1
パナソニックITS株式会社	1
株式会社日立アイイーシステム	1
フロント産業株式会社	1
本田金属技術株式会社	1

株式会社牧野フライス製作所	1
三菱重工業株式会社	2
矢崎総業株式会社	1
ヤマハ発動機株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
株式会社ユタカ技研	1
自営	1

進学(編入学)先大学等

12名

東北大学工学部	1
千葉大学工学部	2
首都大学東京システムデザイン学部	1
金沢大学工学部	2
豊橋技術科学大学工学部	2
香川大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	3

電気電子工学科

36名

就職先企業

21名

ウシオ電機株式会社	1
株式会社エヌ・ティ・ティ ネオメイト	1
株式会社NTTファシリティーズ	1
花王株式会社	1
キャノン株式会社	1
株式会社小糸製作所	1
中部電力株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
東京電力株式会社	1
株式会社東芝	1
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	1
株式会社日本AEパワーシステムズ	1
日本オーチス・エレベータ株式会社	1
日本たばこ産業株式会社	1
パナソニック ITS株式会社	1
パナソニック EVエナジー株式会社	1
株式会社日立グローバルストレージテクノロジーズ	1
矢崎総業株式会社	1
ヤマハ発動機株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
株式会社リコー	1

進学（編入学）先大学等

15名

千葉大学工学部	1
電気通信大学電気通信学部	1
横浜国立大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
山梨大学工学部	1
静岡大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
鹿児島大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5

電子制御工学科

36名

就職先企業

18名

株式会社アイエイアイ	1
株式会社朝日工業社	1
株式会社アルバック	1
株式会社ウィルコム	1
協和発酵キリン株式会社	1
株式会社CRCシステムズ	1
株式会社セガ	1
ソニーイーエムシーエス株式会社 浜松テック	1
中部電力株式会社	1
東栄商事株式会社	1
東芝キャリア株式会社	1
東レ株式会社	1
パナソニック EVエナジー株式会社	1
株式会社バンダイナムコゲームス	1
富士鋼業株式会社	1
株式会社明電舎	1
矢崎総業株式会社	1
株式会社リコー	1

進学（編入学）先大学等

18名

筑波大学社会・国際学群	1
筑波大学理工学群	3
首都大学東京システムデザイン学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
沼津工業高等専門学校専攻科	9
TAC	1
進学希望	1

制御情報工学科

36名

就職先企業

16名

旭化成ケミカルズ株式会社	1
株式会社アマダ	1
株式会社NTTドコモ	1
株式会社Mテック	1
オークマ株式会社	1
株式会社廣済堂	1
サントリー株式会社	1
ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社	1
中部電力株式会社	1
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	1
株式会社ニューメディア総研	1
パナソニック ITS株式会社	1
株式会社日立製作所	1
富士通株式会社	1
株式会社富士テクニカ	1
株式会社リード・レックス	1

進学（編入学）先大学等

20名

筑波大学情報学群	2
筑波大学理工学群	1
千葉大学工学部	1
東京海洋大学海洋科学部	1
東京工業大学工学部	1
東京工業大学理学部	1
東京農工大学工学部	1
首都大学東京システムデザイン学部	1
静岡大学情報学部	3
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
鹿児島大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	4
共立女子大学家政学部	1
進学希望	1

物質工学科

47名

就職先企業

22名

旭化成株式会社	1
エヌ・イーケムキャット株式会社	1
川研ファインケミカル株式会社	1
株式会社光波	1
三洋化成工業株式会社	1
四国パック株式会社	1
新日本石油精製株式会社	1
ダイキン工業株式会社	1
大興製紙株式会社	1
株式会社テルム	1
東邦化工建設株式会社	1
東燃化学株式会社	1
日星電気株式会社	1
日東電工株式会社	1
日本食品化工株式会社	1
ピアス株式会社	1
三島オリンパス株式会社	1
ミドリ安全株式会社	1
株式会社ヤクルト	1
矢崎総業株式会社	2
株式会社リコー	1

進学（編入学）先大学等

25名

東北大学理学部	2
東京海洋大学海洋科学部	1
東京工業大学生命理工学部	2
東京工業大学理学部	1
東京農工大学工学部	2
静岡大学農学部	3
静岡県立大学食品栄養科学部	1
三重大学生物資源学部	1
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
大阪府立大学工学部	1
神戸大学農学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	9

応用物質工学専攻

7名

就職先企業

6名

株式会社アルバック	2
共和レザー株式会社	1
東邦テナックス株式会社	1
浜名湖電装株式会社	1
矢崎総業株式会社	1

進学先等

1名

進学希望	1
------	---

機械・電気システム工学専攻

13名

就職先企業

10名

旭化成エレクトロニクス株式会社	1
オムロン株式会社	1
関東自動車工業株式会社	1
株式会社小松製作所	1
スズキ株式会社	1
ソニーイーエムシーエス株式会社 浜松テック	1
東京電力株式会社	1
富士鋼業株式会社	1
株式会社明電舎	1
矢崎総業株式会社	1

進学先等

3名

筑波大学大学院システム情報工学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学物質創生学科	1

制御・情報システム工学専攻

12名

就職先企業

9名

オリンパスメディカルシステムズ	1
川崎重工業株式会社	1
ソニーイーエムシーエス株式会社 浜松テック	1
東芝プラントシステム株式会社	1
日星電気株式会社	1
株式会社富士通エフサス	1
富士通株式会社	1
株式会社富士データシステム	1
ローランドDG株式会社	1

進学先等

3名

北海道大学大学院環境科学院	1
東京工業大学大学院総合理工学研究科	1
横浜国立大学大学院環境情報学府	1

教育後援会から

卒業に際して

教育後援会会長 (C5) 鈴木 延 孝

卒業生の皆様、おめでとうございます。そして、先生方及び学校関係者の皆様方の御蔭を持ちまして、無事卒業できることを父兄を代表して心から感謝いたします。

早いもので入学以来5年もの歳月が経ったかと思うとただただ驚くばかりの一言に尽きます。思い返せば、沼津高専の入学式から入寮と、たんたんとそのセレモニーが進行していく中で「もやし」のような頼りない若干、15歳という少年少女達がそれまで親元を離れるのもせいぜい数日という極めて短期間の巣離れしか体験したことの無い子供たちが、ほとんど初対面の同級生及び先輩達の中で24時間の協同生活を始めることになった訳です。彼らの日常生活の中で、おそらくそれまで経験したことの無い数々の感情の起伏が訪れたであろうことは、親である私たちにとって心を裂かれる思いをしたものです。見守ることしかできない無力さに苛立ちを覚えたご父兄の方々も数多くいらしたことと思います。そんな彼らが、5年の歳月を経てここまで逞しく成長してきました。卒業というこのよき節目に親としてわが子ながら尊敬のまなざしをむけることができるのではないのでしょうか。

ところで、平成20年は学校にとっても、日本にとっても、また全世界にとってもまさしく激動の年であったと思います。年も改まり平成21年となっても暗い影の勢いは、留まる所を知らずかなりのスピードで押し寄せてくるかのようです。このような時代に巣立っていく若者たちの凛々しい姿を目の当たりにする私達大人は、彼らに何をしてあげられるのでしょうか。就職にしろ進学にしる彼らは既に大人の仲間入りを済ませているのであるか

卒業に際して

教育後援会副会長 (D5) 池田 庄 蔵

間もなく卒業を迎える5年生の皆さん並びに保護者の皆様おめでとうございます。

振り返りますとあつという間の5年間でした。

【1】学校生活を振り返って

入学当初は親元を離れての寮生活に期待も込めつつ不安を抱きながら送り出しました。

寮生活は皆が公私に渡り相談し合ったり、時間を共有したりと話しを聞く度に不安は和らいでいきました。

寮生活は親元で好きに育って来た少年たちに社会生活

ら、ただただ見守ることに徹することが真に彼らのためになるのではないかとも思います。

しかしながら、少しでも若き諸君にお話させてください。人は誰でも傷付きたくありません。出来るなら、傷付かないで生きて行きたいと思うのは誰にでもある自然な自己防衛本能だと思います。しかし、何かに向かって進んでいくという行為は、今までの弱い自分を研磨していくということでもあるのです。命は磨かれて本物となり、輝くことを忘れてはなりません。ではいったい何が命を磨くのでしょうか。それはトラブルなのです。トラブルが、人の命を磨くのです。故に、トラブルは宇宙からのギフトであると解釈しましょう。トラブルに遭遇したら、引き下がってはいけません。怯んではいけません。望むところとばかりに、打って出しましょう。命も時間も、貯金は出来ないからです。命も時間も、使うものであることを、考え方の基本に据えましょう。トラブルに遭遇して、傷つくことを恐れてはいけません。傷付くことの本質は、傷付くことを恐れた弱い命にあったのです。突き詰めて考えていけば、生きることは傷付くことです。それを、命を磨き大きくするチャンスとするか、命を縮ませて小さくする恐怖とするか、人生は、トラブルに直面したときの態度で決まることを、肝に銘じてください。態度とは、在り方です。どう在るかなのです。ダイヤモンドは傷付きません。人がダイヤモンドで在ろうとすれば、どんな困難やトラブルが襲いかかって来ても、傷付くことはありません。一つ大切なことをいいます。覚えておいてください。それは、「あなたが傷付くことを恐れて、傷付かないように生きていると、死ぬその時に思い切り傷付くのだということ！」

人生の先輩を自負するこんな一大人の独り言と思いながらも皆様の今後の人生の参考になるならば、幸いと思います。

のミニチュア版を想像させる恰好の場所だったように思います。

専門教科では、中学までの一般教養とは違い捉えどころが難しく、内容もさることながら授業のスピードが少々速く理解する間もなく黒板のメモを取るのがやっとなんてこともあったでしょう。

しかし、ここに卒業を迎える皆さんは或る意味、理不尽とも言わざるを得ない(社会ではしょっちゅうですが)中でやり抜いて来られたのですから大変なことです。

一昨年は、技能五輪国際大会のメイン会場の一端を沼津高専が担うこととなりました。教育後援会からも資金面で理事会を通じて協力して頂きました。勿論、学生の皆さんもボランティアとして活躍して頂きました。あのような大会の運営に参加し様々な経験になったと推測し

ます。組織運営には多大のパワーと常に最新の状況把握、的確な判断が要求されることを体得できたのではないのでしょうか。今後各方面のリーダーとなられる方もいらっしゃるでしょうから貴重な経験になったと思います。

【2】ブレイクスルー

(breakthrough: 難関・障害などを突破すること)

高専を卒業される皆さんは社会からも期待されて迎えられることでしょう。

しかし、これに安住してはおれません。昨年来の世界経済の変化から企業は、新分野への転換を求められています。皆さんはこの難しい状況の中でスタートすることになります。是非、ブレイクスルーしてください。

進学して研究室に入られる方も教授から難題を突きつけられることもあるかもしれません。負けずに、ブレイクスルーしてください。

とはいうものの厳しいことばかりではありません。私は、1970年代、通産省主導で外国勢に対抗すべく国産VLSI搭載の超大型汎用コンピュータ開発の仕事に参加することができました。半導体の開発から始まりハードウェア、OS、オンラインシステムなど多岐に渡り全てが未開のものでした。この仕事から学んだ点や感じた点は、それぞれのパートでそれぞれの人達が意気に感じ目的に向

かってブレイクスルーできたことです。“同じ釜の飯を食った”という表現はまさしくあの感覚なのだと思います。「飽くなき探究心、互いの信頼感の醸成」は、以後の技術者としての基礎をなしたものでした。そのようなチャンスが巡ってくることを期待したいと思います。

【3】サステナビリティ—沼津高専へのエール—

(Sustainability: 持続可能性)

少々厳しい話に触れさせていただきます。

正直申しまして沼津高専の学業に対しては若干の不安が垣間見えてきております。ゆとり教育の下で小・中学校を過ごしたことで学生の体力（自ら悩み解決に持ち込む執念）が衰えてきているということです。学校で学ぶべきところを塾に頼り成績（数値）のみを追いかけてきたことの反動だと理解しております。このような状況では、学生に対する指導方法も変化させていく許容を備えることが必要であると思います。講義などに於いては、学生に伝わる言葉で一方通行ではないコミュニケーションのとれた会話が要求されると考えます。

また、事ある毎に親も子供に対し学習に対する取り組みの姿勢を語る必要があるのではないのでしょうか。

沼津高専の更なる躍進を期待しております。

沼津高専TOEIC® IP試験

英語教育ワーキンググループ 舟田敏雄

2008年10月25日(土)に、本校講義棟で4、5年生全員を対象に「沼津高専TOEIC®IP試験」が実施され、377名が受験しました。受験者の平均スコアは333点でしたが、試験前後のアンケートではTOEIC®IPテストの取組みを歓迎する回答や英語力アップを図りたいとの意欲的な声が聞かれました。

この試験は、沼津高専の「1-5年の準学士課程」と「4、5年と専攻科の学士課程」の全体を見越した英語教育の将来ビジョンの検討が進められて来る中で、本校の英語教育推進策の一環として実施されたものです。在学中に日頃の授業や自己学習の成果を試すためにTOEIC®IPテストあるいはTOEIC®公開テストを受験し、学力アップが加速され、ハイスコアが学生のキャリアアップになり、就職/進学に役立つものとなるよう計画されています。また、工学の専門教育を英語で実施することも将来計画に入っています。

今回の試験を契機に、柳下校長より校長リーダーシップ経費で日本におけるTOEIC®テストを実施・運営する(財)国際ビジネスコミュニケーション協会賛助会員制度の正会員の入会手続きを行って頂きました。それにより、沼津高専は団体として様々なTOEIC®プログラムを賛助

会員価格で実施することができます。一例として、今回の本校でのTOEIC®IPテスト受験料は「通常価格4,040円(税込) / 1人」のところ、「賛助会員価格2,990円(税込) / 1人」となります。さらに、ほかのTOEIC®プログラムでも賛助会員価格での実施が可能です。

これらの背景として、平成20年は文部科学省の「英語が使える日本人」行動計画の最終年度にあたり、「国際社会に活躍する人材等に求められる英語力」として「各大学が、仕事で英語が使える人材を育成する」ことが求められて来ました。また、技術者教育の国際化としてJABEEからTOEIC®テストを考慮した英語力達成基準の明確化が求められ、本校の技術者教育プログラムでは本科でのTOEIC®スコア350点以上を専攻科入学学力基準にしています。また、本校の「技能審査の合格に係る単位修得の認定について」によれば、「TOEIC®スコア860点以上は7単位」、(途中は省略)、「470-530点は1単位」が「外部修得単位」として認定されます。

2009年度には3、4年生に「沼津高専TOEIC®IP試験」が計画されています。また、低学年から高学年まで様々な英語教育の計画が進んでおります。6月に専攻科入学試験が実施される予定ですが、5年生200名のほぼ半数の専攻科受験が見込まれており、TOEIC®IPテストで高スコアを取得する合格者が数多く出ることが期待されます。

保護者の皆様におかれましても、校長を先頭に加速推

進しつつある本校の英語教育推進策に、ご理解とご支援・ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

- ◆ TOEIC®テストはリスニング（45分間・100問）、リーディング（75分間・100問）、合計2時間で200問に答えるマークシート方式の一斉客観テストです。出題形式は毎回同じで、解答はすべて問題用紙とは別の解答用紙に記入します。テストは英文のみで構成されており、英文和訳・和文英訳といった設問はありません。
- ◆ 団体特別受験制度（IP: Institutional Program、以下IPテスト）とは、企業・学校・団体が独自に設定した日時・場所において、実施団体の管理の下で行われます。公開テストとは、TOEIC運営委員会が指定する日時・場所において、TOEIC運営委員会が主催するものです。公開テストとIPテストのテスト結果（スコア）の有効性は同一です。
- ◆ 9月初めに、TOEIC®試験へのガイドブック「TOEIC®Style Book」が4、5年生に配布されました。
- ◆ TOEIC®テストは、(1)合否ではなく10点から990点までのスコアで評価されます（スコア評価）。(2)TOEICテストは、世界約90ヶ国で実施されており、年間約500万人（日本国内では163.5万人：2007年度）が受験しています。グローバルスタンダード、「世界共通の基準」として活用することができます。(3)英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価します。
- ◆ TOEIC®テストの採用校は821校（大学446校、短期大

学56校、高等専門学校58校、中等教育学校2校、高校233校、中学校26校 <http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/TOEIC2007.pdf>）です。特に、高等専門学校においては全国63校中58校において採用されています。実社会においては、約1,900の企業で採用されています。企業においては、社員採用時・異動時・海外赴任選抜等で活用されています。

- ◆ 「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想の策定について（<http://www.mext.go.jp/bmenu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm>）「大学入試」：大学入試センター試験でのリスニングテストの導入。戦略構想の達成目標

◎国民全体に求められる英語力→中学・高校での達成目標を設定。

- ・中学校卒業段階：挨拶や応対等の平易な会話（同程度の読む・書く・聞く）ができる（卒業者の平均が英検3級程度）。
- ・高等学校卒業段階：日常の話題に関する通常の会話（同程度の読む・書く・聞く）ができる（高校卒業者の平均が英検準2級～2級程度）。

◎国際社会に活躍する人材等に求められる英語力→各大学が、仕事で英語が使える人材を育成する観点から、達成目標を設定。

第11回MSOE海外研修の実施予告

制御情報工学科教授 大島 茂

アメリカ中西部のウイスコンシン州にある私立工科系大学「ミルウォーキー・スクール・オブ・エンジニアリング（通称MSOE）」へ学生を引率し、英会話研修と異文化体験を目的とした3週間の研修を夏季休暇期間中に実施しています。若く感受性の強い学生時代に海外へ出してやるのが国際感覚を養う上で最良の方法であると考え、1996年に第1回を実施しこれまでに10回を実施してきました。

MSOEの学生寮に宿泊し、英会話のレッスンを受けながら、ホームステイ、工場見学、美術館や博物館の見学、大リーグ野球観戦やフェスティバルの見物、シカゴやマディソンへの旅行など、数々の活動を通していろいろな楽しい体験をします。それらを通してアメリカの文化を理解し、また日本の文化を見直し、多くの人達と交わり語り合い一緒に行動するなかで、言葉や習慣は違っても、心の触れ合いを感じ、互いの優しさに感動することができる素晴らしいプログラムです。

昨年の夏に第10回を実施し、12名の学生（男子8名、女子4名）が参加しました。参加学生の書いた紀行文より感想の言葉を少し紹介します。「自分がアメリカに行き、外国人となって日本とアメリカを比べることにより、今まで知らなかった日本やアメリカを見つけることができました。そして、今までより視野を広げることもできました。また、多くのことを知ることにより、自分を人間的にも成長させることができたと思います。」「ホームステイで体験したことそのすべてが最高の思い出として心の中に残っています。またホストファミリーと会う約束をしました。その為にもっと日本で一生懸命英語を勉強したいと思います。」「ホームステイでは今まで体験したことのないことをたくさん経験できとても良い思い出になりました。まだまだやり残してしまったことがあるような気がして、まだまだアメリカにいたかったです。」「日本とは大きく異なる環境にさらされ、自分自身の精神が磨かれた感じです。MSOEに参加して人生で最も有意義な日々を過ごせたと思います。」「専門分野についての十分な知識を身につけて、今度外国に行ったときには、MSOEの学生のように自分の専門分野のことを英語で流ちょうに説明できるようになりたいです。」「MSOEに行って学んだこと。それは一生忘れないと思います。英語だけではなく、アメリカの文化にじかに触れるというのは自分にとっても大きい経験となります。行こうか迷ってい

る人は迷わず行くべきだと思います。」「アメリカに行って、英語が聞き取れるようになったとか、日常の会話ができるようになったとか、そういったことも大事だけど、今与えられている環境への感謝や人とかかわりといったそれ以上に大切なことを学んだ研修だった気がした。」「言葉や生まれが違っても、同じ人間なので仲良くなることは簡単。当たり前のことですが、やはり日本のような島国の中にいると実感をもてないことが多いです。今回の旅行を通して、自分はそれを身をもって学ぶことが出来ました。」「アメリカで学んだことを、日々の生活に生かしていけば、僕の生活はかなり熱いものになると思います。アメリカでの生活は僕にとって忘れられない思い出になりました。」「アメリカという未知の世界で新しい発見をたくさんできたこと、たくさんの人と関わることでできたことは最高の財宝です。」「MSOEを通して、周りが英語しかない環境の中でも普通に対応することができたのでとても感動しました。」「この夏、自分にとっての世界観が広がった気がする。今までアメリカについて知らなかったことを知ったし、逆に日本の良さも知った。」

このように参加した学生達はそれぞれに皆深い感銘を受け、成長して帰ってきました。平成21年度もまた実施する方向で準備を開始します。現時点の予定では7月27日前後に出発し8月16日前後に帰国する予定です。詳細は4月初旬にパンフレットの配布と募集説明会でお知らせします。最少遂行人員7名を超える参加者が得られない場合は実施できません。参加者募集は4月中旬から5月初旬にかけて行いますが、今からご家庭で相談しておいて頂けると有難く思います。この海外研修プログラムに関するご質問等は遠慮なく私までお問い合わせください。教員室の電話は055-926-5787、Eメールアドレスはoshima@numazu-ct.ac.jpです。



事務部から

平成21年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料の納付が困難で、学力優秀と認められる学生について、平成21年度前期分授業料免除および徴収猶予の申請を受け付けています。希望される場合は、下記のとおり申請してください。

なお、平成20年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象とはなりませんので注意してください。

記

提出締切日 在校生…平成21年3月30日(月)

新入生…平成21年4月6日(月)

提出書類 授業料免除願、授業料徴収猶予願、家庭調書、経済状況に関する調書、所得の証明書（源泉徴収票、確定申告書の写し等）、住民票 等

※所定の様式がありますので、申請を希望される場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

- 注意事項**
- 1 申請書類提出の際は、事前に保護者から学級担任に、申請理由を電話または手紙で連絡をお願いします。
 - 2 提出書類は、学級担任の確認・押印後に学生係へ提出してください。
 - 3 ご不明な点等ございましたら、学生課学生係（☎055—926—5734）にお問い合わせください。

行事予定表

平成21年

- 4月** 入学式・入寮式
1年生Base試験
始業式・対面式
健康診断
1年生合宿研修
- 5月** 後援会総会・保護者懇談会
スポーツ大会・学生総会
寮祭
- 6月** 前期中間試験
平成22年度専攻科入学試験
東京高専定期戦
- 7月** 東海地区高専体育大会
1～4年生保護者懇談会
近畿東海北陸信越弓道大会
- 8月** 一日体験入学
平成22年度編入学試験
全国高専体育大会
全国高専将棋大会
- 9月** 防災訓練
校内英語スピーチコンテスト
前期期末試験

- 10月** 4年生工場見学旅行
高専ロボコン東海北陸地区大会
2年生特別研修
体育祭・学生総会
3・4年生TOEICテスト
- 11月** 文化講演会
高専祭
体育祭・学生総会
高専ロボコン全国大会
- 12月** 1～4年生後期中間試験
テクノフォーラム
4年生工学系数学統一試験

平成22年

- 1月** 中部近畿地区高専将棋大会
3年生合宿研修
3年生学習到達度試験
1・2年生ACE試験
平成22年度推薦選抜入試
- 2月** 学年末試験
平成22年度学力選抜入試
- 3月** 5年卒業研究発表
卒業式・修了式